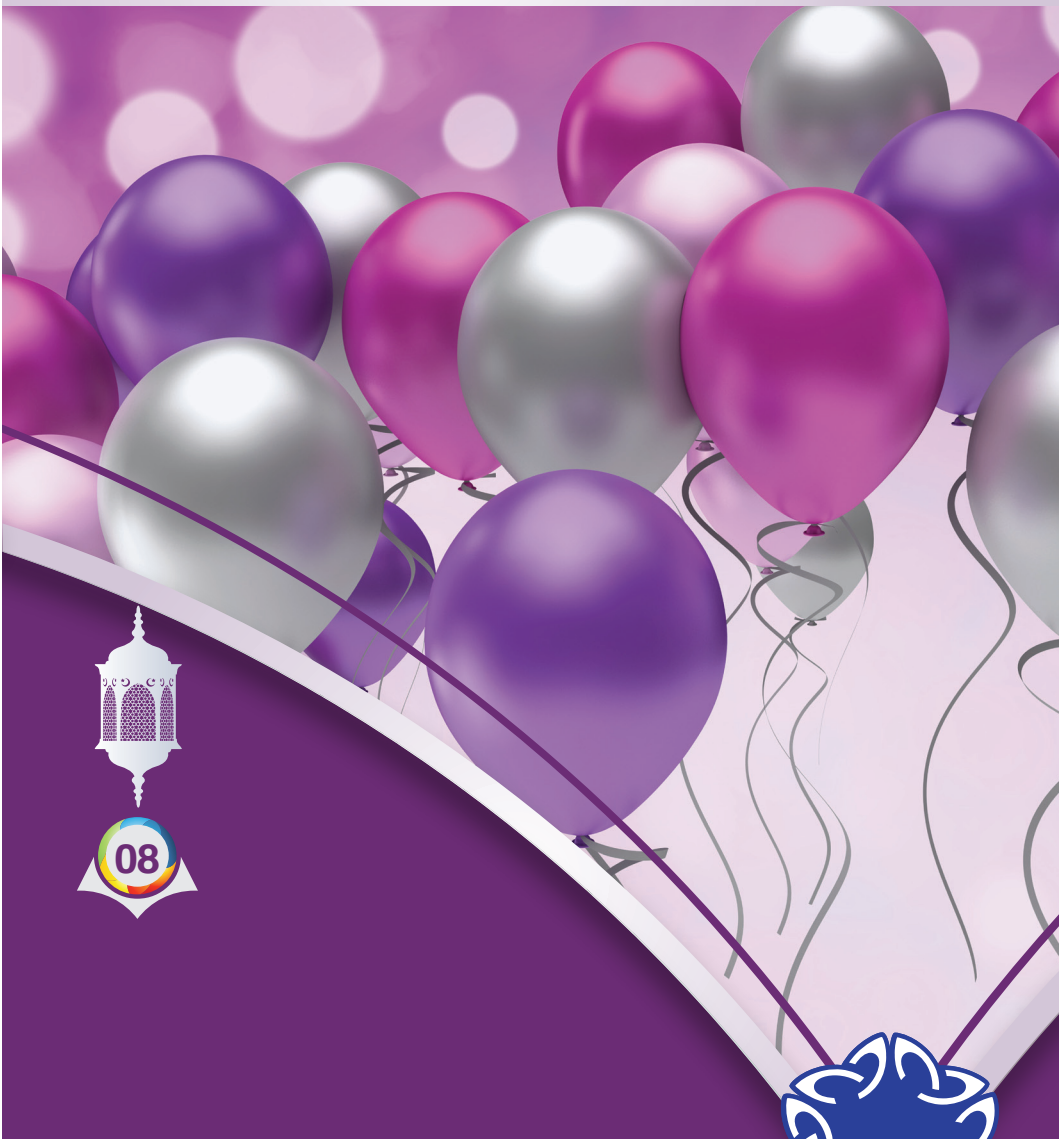




مركز اوسول
Osoul Center
www.osoulcenter.com



幸福への道



アブドゥルラフマーン・
ビン・アブドゥルカリーム・
アッシーハ



مركز أوسول
Osoul Center
www.osoulcenter.com



幸福への道

アブドウルラフマーン・ビン・
アブドウルカリーム・アッシーハ

اللغة اليابانية



慈悲あまねく慈愛深き
アッラーの御名において



読者の皆様へ

イスラームは創造主によって完成された素晴らしい宗教であり、また人生の道でもあります。幸せな人生を歩みつつ、平和と安らぎに満ちた来世を得るためのガイドラインであるイスラームに、欠点や不備はありません。イスラーム教徒が間違った行動をとってしまったとしても、イスラーム自体が間違っているからだと言うことはできません。多くの場合、間違った行動は真実への理解の貧しさから生まれるものです。人を正しさや高潔さから迷わせてしまうもの、それが信仰の弱さなのです。誰かの行いによってイスラームを判断することはできません。人類の模範であり、最高の手本である預言者ムハンマドを除いては。

目次

1. はじめに	11
2. 本当の幸福	15
3. イスラームの徳	25
4. 幸福を手にするために	31
5. おわりに	77

序にかえて

مركز اوسول
Osoul Center

本書はウスールセンターにより企画、準備、デザインされたものです。本書に掲載された写真の著作権はウスールセンターに属します。ウスールセンターは全てのスンナ派ムスリムにあらゆる媒体における本書の再版および出版を、1) ウスールセンターに事前にお知らせいただくこと；2) ウスールセンターの許可なく内容の変更修正をしないこと、を前提に認めております。また、出版品質を保つていただくことをお願いいたします。

☎ +966 11 445 4900

📠 +966 11 497 0126

✉ P.O.Box 29465, Riyadh 11457

@ osoul@rabwah.sa

🌐 www.osoulcenter.com



مركز أصول
Osoul Center
www.osoulcenter.com

全ての賛美と感謝は全世界の主であり、天と地と、そこに住む全ての生命の創造主である神にあります。神による平和と祝福が、私たち人類へのいつくしみ

と、あわれみを伝えられた最後の預言者ムハンマドにありますように。また人々を闇から光へと導くために送られてきた全ての預言者たちと使徒たちに、神の恵みがありますように。

イスラーム交流を支援するウスूलセンターは出版のたびに読者の皆様とふれあう素晴らしい機会に恵まれています。全ての出版物には包括的な目的があります。それは真実であるイスラームを人々に伝えること。イスラームの素晴らしい側面と深い教えを伝えることで、生きてゆくうちに遭遇する様々な問題の現実的かつ有効な解決策、本当の意味でそれを与える唯一の真実を発見して頂くためなのです。イスラームは全ての世代が直面する疑問や問題に、明確な答えを与えてくれます。私たちはどこから来たのか、なぜ存在するのか、そして、どこに行くのか。また、イスラームはモーゼやイエス・キリスト(彼らに平安あれ)など、神がつかわした全ての使徒たちを愛し、尊敬するように教える唯一の宗教でもあります。私たちは読者が安心できるような根拠や、論理的な議論を提供できるように細心の注意をはらっております。これらの出版物はイスラームへの誤った批判を正し、その教えに対する、人々の間違った理解を明らかにしてくれるでしょう。ピューリサーチセンター(注1)によれば、神の恵みのもとに、イスラームは最も急速に広がっている宗教なのであり、その動機は素晴らしい神の教えを人々に伝えたいという願いなのです。

本書『幸福への道』は、イスラームという素晴らしい人生の道が、神によるものであり、イスラームによって人々に保証されている、現世と来世における、本当の幸福とは何かを説明しています。イスラームという道に含まれる責任や、避けるべきことは、私たちが必要とするものと、幸福を守るためにあります。イスラームは信仰者たちに、人間がどのような立場にあるのか、また自分たちを取りかこむ宇宙と、どのような関係にあるのかを明確に示しています。イスラームにおける責任や、避けるべきことは、私たちの自由を制限したり、重荷となるようなものではありません。イスラームは真実と、天国における永遠の幸福という未来を確証しており、ムスリムたちは、その崇高さを望むからこそ神に従い、神のお喜びに身を捧げるのです。

本書が読者の皆様の知識と、イスラームへの理解の助力となりますように。

バーシル・イブン・アブドゥッラー・
アルファウザーン

注1:『未来のムスリム人口』ピューリサーチセンター、2011年1月27日。参照
(<http://www.pewresearch.org/>)



用語集 (Glossary)

1. ディナール&ディルハム: 当時使われていた金貨と銀貨。
2. ハディース: 預言者ムハンマドの言葉、行動、許可事項、禁止事項、明確にしたこと、黙認したことなどから構成される言行録。
3. イウティカーフ: 言葉の意味は『一人きりになる』ということ。イウティカーフはイスラームにおける崇拜行為のひとつであり、計画的にモスクにこもってアッラーに崇拜行為を捧げること。
4. イーマーン: 信仰。
5. ジャンナ: 正しい信者が来世でアッラーから授かる、天国の住まいや楽園のこと。
6. シャイターン: 悪魔。
7. シャリーア: イスラーム法。
8. スンナ: 主に以下の2つを指す。
 - a. 預言者の習慣。
 - b. 必須ではないものの信者に推奨されている行為。



はじめに



はじめに

全ての称賛はアッラーにあります。アッラーが預言者様とその家族、その教友たちを賛美して、全ての悪から救って下さいますように。

幸福の鍵を見つけるのに、そう時間はかかりませんので、まずは先入観を捨てて本書を読み進めてみて下さい。

親愛なる読者の皆さま。私たちが暮らすこの世界の美しさについて、深く考えてみたことはありますか？そこで暮らす生命、星々や天体、宇宙の複雑な関係。仮に創造主がいないとすれば、全てが混沌におちいってしまうとは思いませんか？高貴なる神は、こうおっしゃりました。

『太陽が月に追いつくことはありません、夜が昼に先駆けることもない。そして全ては、その軌道を走る。』(36:40)

天体は創造主が望まれる時まで、軌道をなぞり続けます。混沌と共に世界が終わるその時まで。高貴なる神は、こうおっしゃりました。

『太陽が巻き込まれ(、その光を失つ)た時、また、星々が(その光を失って)落下した時、また、山々が動かされ(て、粉々にされ)た時、また、妊娠十ヶ月目の雌ラクダが放つたらかしにされた時、』(82:1-4)

ここで一度、考えてみましょう。これら全ての創造の裏にある目的とは何でしょうか。世界は目的もなく創造されたのでしょうか。人類という驚くべき存在について、高貴なる神はおっしゃりました。

『人間よ、何があなたを恵み深い主からまどわせ(背かせ)たのか。かれはあなたを創造し、形を与え、(均整のとれた体に)整え、かれの御心のままに、形態をあなたに与えられた御方である。』(82:6-8)

私たちは人生の行動全般において、ゴールを達成するための目標と意志を持っています。神の行動となればなおのこと、神聖なる知識や目的のないものなど、ありはしません。高貴なる神はおっしゃりました。

『一体あなた方は、われらがあなた方を無意味に創造したと、そしてあなた方が(清算と報いのため)われらの御許へと戻られないとでも、思っていたのか？』王であり、真理であられるアッラーは、(そのような無意味な行いから)高遠なお方。貴い御座の主、かれの外に(真に)崇拜すべきものはない。』(23:115-116)

私たちが包む世界と天の広がりを見て、このような疑問を感じたことはないでしょうか。誰がこの完全なる世界をつくったのか？清らかな心と正しい知性の持ち主であれば、人は至高の創造主を理解できるものです。高貴なる神はおっしゃりました。

注1: クルアーンに頻出する『主=ラッブ』という言葉に完全に対応する訳語はありません。この言葉には創造主、形成者、維持者、全ての生物が頼っている存在、命を与え、死を与える存在、といった意味があります。

『(彼らは)立ち、座り、横になりつつアッラーを唱念し、諸天と大地の創造を熟考する者たち。(彼らは言う。)'我らが主よ、あなたはこれらを無意味にお創りになったのではありません——あなたに称えあれ!——。ゆえに私たちを、(地獄の)業火の懲罰からお守り下さい。』(3:191)

何も無かったところから宇宙を創造された御方が、この世界を終結させられるときに、永遠の人生が始まります。至高のアッラーはおっしゃりました。

『あたかも書(面の上)にページを折りたたむかのように、われらが天を折りたたむ、その日。最初の創造を始めたように、われらはそれ(創造)を元通りにするのである。われらにとって(履行)必須の約束として(、復活を約束したのだ)。本当にわれらは、もとより(約束を全う)する者だったのである。』(21:104)

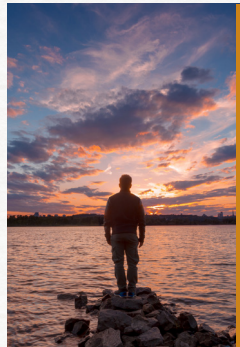
わたしたち人間は、宇宙の法則のもとに生きています。すなわち、全てには終わりがあるのです。しかし、この人生を去ることは物語の完結を意味するわけではなく、私たちは、よみがえらされた後に行動の責任を取ることになっています。審判の後、私たちは永遠の祝福のうちに進みゆくか、終わることのない苦しみの底に落ちてゆくことになっているのです。そもそも私たちを、無から創造された御方にとって、私たちをよみがえらせることなど簡単なのです。高貴なるアッラーはおっしゃりました。

『また、かれは創造をお始めになり、やがてそれを戻し給うお方——それはかれにとって(最初の創造)より容易いこと——。また、かれにこそ諸天と大地における最高の属性がある。かれは偉力ならびないお方、英知あふれるお方。』(30:27)

そんなことは不可能だと思方のために、私たちのまわりの世界を見てみましょう。一滴の水すらない荒涼とした砂漠、そこには生命の印ひとつありません。しかし、雨がふって大地が満たされれば、誰もが植物など育つはずもないと思っていた場所に、みるみる草木が茂り始めます。これは復活が起こりうることの印であると、高貴なるアッラーはおっしゃりました。

『またあなたが、大地がみじめな有様なのを見ても、そこにわれらが(雨)水を降らせると、それが震動し、膨張するのは、かれの(唯一性と全能性を示す)みしるしの一つ。それに生を与えたお方こそは、まさしく死んだものに生を与えられるお方。本当にかれは全てのことがお出来になるお方なのだ。』(41:39)

私たちを包む世界と天の広がりを見て、このような疑問を感じたことはないでしょうか。誰がこの完全なる世界をつくったのか?





幸福



本当の幸福



心理学者によれば幸福とは、継続する楽しみ、満足、気前のよさ、喜び、自分自身や人生への満足、運命に祝福されているという信念、そのようなものから生まれるとされています。

本当の幸福

幸福とは、何でしょう？ よく言われるのは、心地よい感覚や、幸運、ゆるぎない心の状態といったものです。

人は誰も成しとげたい目標があるもので、その成果が得られると幸せを感じるのです。

心理学者によれば幸福とは、継続する楽しみ、満足、気前のよさ、喜び、自分自身や人生への満足、運命に祝福されているという信念、そのようなものから生まれるとされています。

幸福の種類

まずは幸福を3つのカテゴリーに分類してみましょう。

01

第1の幸福:これは、まやかしの幸福、ほんのわずかな幸せ、一時的な高揚、瞬間的な高ぶりのことです。多くの人はお酒に酔うことを幸福であると考えています。人生の問題を忘れるために、お酒や薬を楽しむのです。私たちは人生の問題を忘れることが幸福なのである、と考えがちですが、お酒や薬の乱用は、ほんの一時で消えてしまう幸せや幻覚によって、人をみじめに追い込んでゆきます。その状況は、より多くのお酒や薬を求めるように人を駆りたて、やがては中毒症状による疾患を背負いこませてしまうのです。

02

第2の幸福:目標を達成することで得られる幸福。まやかしの幸福のような害はないものの、同じように短期間で消えてしまう幸福です。苦労して目標に進んでゆき、ついにそれを達成すると、人はふと考えるものです。さて、次は何をやるのだろう？ クライマックスの果てに感じるむなしさと、すぐに消えてしまう瞬間的な幸福には、まやかしの幸福に通じるものがあります。



03

第3の幸福:本当の幸せ。喜び、悲しみ、成功、貧困、病める時、すこやかな時、目標が達成できた時、目標が達成でない時。どのような状況にあらうと私たちの内にとどまり続ける幸福こそが、本当の幸福なのであり、これこそが信仰によって結ばれる幸福なのです。

あなたは本当に幸せになりたいですか？

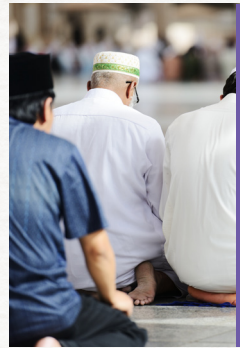
こんな質問をすると不思議に思われてしまうかもしれません。答えは明らかなのですから。

誰もがこの質問には、うなずいて下さるのではないかと思います。では、どうすれば幸福になることができるのでしょうか？人は誰も自分なりの意見を持つてるものです。幸福はお金を稼ぐことだと信じている人もいれば、権力だと考える人もいます。友達の数や、他人への影響力だと考える人もいます。しかし、もし目標に向けて努力してきた人に、実際に幸福を得ることができたかどうかを聞いてみると、多くの場合、まだであるという答えが返ってきます。理由は簡単で、本当の幸福は終わることのない祝福と安らぎの中しかないからです。アラブのことわざに『ベッドを買うことはできても、眠りを買うことはできない』とあるように、山ほどの金塊を持っていても本当の幸福を経験することはできません。

不合理なものや理性的でないものを信じているがために、私たちは本当の幸福から遠ざかってしまうことがあります。

私たちを不幸にする心のむなしさを取り除くために、価値ある目標を見定めて、成長を促してくれる真実を受け入れる必要があります。

幸せになることは誰にでもできる簡単なことですが、どの道が正しい道であるのかを考えてみる必要があります。心の底から幸福を求めているならば、努力してそれを追求してみるべきです。本当の幸福はイスラームを受け入れること、つまり創



幸せになることは誰にでもできる簡単なことですが、どの道が正しいのかは考えてみる必要があります。

造主に従うことによるのみ手に入れることができます。このような発言は疑わしく思われるかも知れませんが、真実なのです。イスラームを心の底から受け入れ、クルアーンとスンナの教え(注1)を実践することで、人は本当の幸福を経験することができるのです。

「どうして?」と思われる人もいらっしゃるでしょうが、それにお答える前にもう一度、幸福の定義を見てみましょう。心理学者は幸福というものを、継続する楽しみ、満足、気前の良さや喜び、自分自身や人生、運命への満足から得られるものである、と定義しています。この全てをイスラームは与えてくれます。全能の神はおっしゃりました。

『本当に服従する男(ムスリム)たちと服従する女たち、信仰する男たちと信仰する女たち、従順な男たちと従順な女たち、(言動において)正直な男たちと正直な女たち、忍耐する男たちと忍耐する女たち、恭順な男たちと恭順な女たち、よく施す男たちとよく施す女たち、(義務、任意を問わず)サウム(断食)する男たちとサウムする女たち、自らの陰部を(禁じられた物事から)守る男たちと(それを)守る女たち、アッラーをよく唱念する者たちと、(かれをよく)唱念する女たち、アッラーは彼らのために、おゆるしと偉大な褒美をご用意された。』(33:35)

人生における満足も、全能の神に保証されています。

『(ムハンマドの共同体よ、)あなた方はもとより、人類へ遣わされた最良の共同体なのだ。あなた方は善事を命じて悪事を禁じ、アッラーを信仰する。もし啓典の民が(イスラームを)信じたなら、(それが)彼らにとって、より善いことだったのだ。彼らの内には信仰者もいるが、大部分の者は放逸な者たちである。』(3:110)

また来世での満足もこのように保証されています。

『本当に、信仰し、正しい行いを行う者たちには、おもてなしとしてフィルダウスの楽園(注2)がある。(彼らは)そこに永遠

注1: スンナとは預言者の習慣のことで、行動や言葉、了承が含まれています。

注2: 天国の家や楽園のことで、正しい信仰者が来世でアッラーからいただくもの。



كنت خير امتا خرجت للناس

『(ムハンマドの共同体よ、)あなた方はもとより、人類へ遣わされた最良の共同体なのだ』(3:110)

に留まり、そこから(いかなる別の場所にも)移されることを望まない。』(18:107-108)

本質的に、真実の幸福には様々な要素が関係していて、物質的にも精神的にもバランスのとれた真実を受け入れることが大切です。ニューエイジ思想やカルト集団といった、人間によって作られた組織も、イスラームから少なからぬ影響を受けています。しかし、それらは私たちの問題に長期的な解決を与えてはくれません。ソビエト連邦が崩壊したことを考えてみても、現代に君臨する資本主義が破綻しかけていることを考えてみても、これらのシステムが成功しない理由は簡単で、間違った信条と近視眼的な意見の上に築かれたものであるからなのです。

人間によって作られたシステムは、ある集団を、他の集団の上に引きたてる傾向があります。個人を集団の上に置くか、集団を個人の上に置くか。さらに悪いのは、これらのほとんどが精神的な価値よりも、物質的な価値に重きを置いていることです。イスラームはその一方で、人間に完璧なバランスを提供してくれます。高貴なる神はおっしゃりました。

『また同様に、われらはあなた方を最良の共同体とした。(それは)あなた方が人々に対する証人となり、使徒(ムハンマド)があなた方の証人となるためである。』(2:143)

預言者ムハンマド ﷺ (注1) (彼に平和と祝福あれ)は教友アブドゥッラー・ビン・ウマル(彼にアッラーのお喜びあれ)におっしゃりました。



注 1: アッラーの賛美が彼と彼の家族の上であり、彼らが中傷から守られますようにという意味。

物質主義者は精神的な価値を軽視して、人生を様々な欲求を満たすためのものに過ぎないと考えがちです。

「アブドゥッラーよ、あなたがたて続けに日中は断食をして、夜には祈り続けていると聞きました」彼は言いました。

「そうです」預言者(彼に平和と祝福あれ)はおっしゃりました。「いけません。断食をしたら次の日は休みなさい。夜の一部に礼拝をしたら眠りなさい。あなたの体にも、目にも、あなたの妻にも、あなたに対する権利があるのですから」

(ブハーリーによる伝承)

物質主義者は精神的な価値を軽視して、人生を様々な欲求を満たすためのものに過ぎないと考えがちです。宗教を手放した西洋人にとっては、当然のことなのかも知れません。

しかし、果たしてそのような考えは人を幸せにするのでしょうか？そうではない、と考える人も多いのではないかと思います。もし物質的な快楽が幸福への鍵だとすれば、著名人や富裕層が自殺することなどあり得ないはずですが、現実とは違います。そして極めて貧しい境遇にありながらも、ゆるぎない幸福と満足のもとに暮らす人々が、この世界には確かにいるのです。

悲しみは、心のむなしさや、精神的な病から生まれます。それを癒すのに必要なものは、お金ではなく、全能の神と、神が授けてくださった教えを信じることです。人生に打ちのめされた人々を見れば分かるように、心の病を放置しておくことが、良い結果につながることはありません。

個人レベルにおいても、国家レベルにおいても、世界有数の富裕国であるスカンジナビア諸国に行けば、満ち足りた生活を送れるのだらうと思う人もいるかも知れませんが、そこは最も自殺者の多い場所でもあります。一方のムスリム国家は、一般的には後進国であると思われがちですが、自殺者は一ヶ月に一人いるか、いないかという驚くべき低さなのです。

心にも身体と同じように栄養が必要です。さもなければ余計





F. フィルウィース(注1)はこう言っています。『西洋社会は、幸福をもたらす信念や、信仰といった、精神性の欠如におびえているのです。経済的成功による豊かさにも関わらず、物質的な満足のをぞけば、西洋人は人生における無価値を感じている、と言わざるを得ません。なぜ生きるのか、どこに行くのか、それはなぜか。誰も満足のゆく答えを与えてはくれないのです。その癒しを、彼らが疑うことしか知らない真の宗教が持っているとは、夢にも思わなかったのです。しかし、ある少数の人たちがイスラームを受け入れ、その教えのもとに生活を始めると、一筋の光がもたらされました。今となっては毎日のように、真実の宗教を受け入れる人たちがいるのです。これは、ほんの始まりに過ぎません』

な不安や、不満、不幸に悩まされることになります。唯一の神を信じ、私たちがよみがえらされた後で、行動の責任を取らなければならないという真実を信じることで、心は養われてゆくのです。また、人は正しい行動を選択して、悪を退けなければなりません。全能の神はおっしゃりました。

『信仰し、その心がアッラーの唱念で安らぐ者たち(を、アッラーはお導きになるのだ)。アッラーの唱念によってこそ、心は安らぐのではないか。』(13:28)

誠実なムスリムたちは、満足感や幸福、祝福といった素晴らしい感覚を、日常的に味わっているものです。学者のイブン・タミーヤ(神の祝福あれ)は迫害を受け、追放され、投獄されたのちに、こう言いました。「敵に何ができるというのですか？ 私の楽園と果樹園は心のうちにあり、切り離すことなどできないのです。投獄されても、それは宗教的な避難でしかなく、殺されれば殉死であり、追放されたって旅行でしかありません」

本当に素晴らしい言葉です。投獄され、不当にあつかわれてもなお、彼はそう感じていたのです。本当の信仰をもつ

西洋社会は、幸福をもたらす信念や、信仰といった、精神性の欠如におびえているのです。



注1： 第一次および第二次世界大戦に参加したイギリス海軍将校。クルアーンとイスラーム関連書籍を読んだのち、1924年にイスラームを受け入れる。

イスラームの教えこそが何よりも確実に心配事を忘れさせて、あなたを忍耐強くしてくれるでしょう。不満を、満足に変えてしまうのです。

人は、常に幸福なのです。イスラームは、完全なる心の幸せと、金銭や社会的立場に左右されることのない満足を与えてくれます。本当のムスリムは、病気でも、健康でも、豊かでも、貧しくても、安全にあっても、混乱にあっても、どのような状況にも満足しているものです。至高なるアッラーは、おっしゃりました。

『(彼らは)災難が降りかかれば、「本当に私たちは、アッラーにこそ属します。そして必ずや私たちは、かれの御もとへと帰り行くのです」と言う者たち。そのような者たち、彼らの上には、その主からの賞賛とご慈悲がある。そしてそのような者たちこそは、正しく導かれた者たちなのである。』(2:156-157)

神の使徒(彼に平安と祝福あれ)は、おっしゃりました。

「本当に驚くべきは信仰者の態度であって、彼にとって全ては最終的に良いこととなるのです。祝福と恵みを受ければ、感謝してありがたく思い、災難に苦しめば、忍耐することでそれを良きものにします」(ムスリムによる伝承)

イスラームの教えこそが何よりも確実に心配事を忘れさせて、あなたを忍耐強くしてくれるでしょう。不満を、満足に変えてしまうのです。

またイスラームは出家したり、現世の楽しみから身を引くようなことも教えていません。むしろ本当の幸福を獲得するために、現世的な所有物を有効活用することが求められています。

権力のある人は誰でもそれを、神の宗教における正義を高め、神の宗教に従う兄弟姉妹の必要を満たすために使うべきなのです。神はおっしゃりました。

『よい執り成しをする者には誰でも、その(ほうびの)分け前があろう。また、悪い執り成しをする者には誰でも、その(罪の)取り分があろう。アッラーはもとより、全てのことを看視されるお方。』(4:85)



誰でも財産のある人はそれを神の道において使い、兄弟姉妹の問題を軽くするために使うように勧められています。神はおっしゃりました。

『また、自らの財産の内に、(施しのための)一定の権利がある者たち。(人々に施しを)要求する者にも、(それを)禁じられた者に対しても。』(70:24-25)

預言者(彼に平安と祝福あれ)は所有する資産に何が起きるかを明らかにされています。彼はおっしゃりました。

「人は『私の財産、私の財産』といますが、あなたの財産は無駄に使ってすり減らせるか、慈善事業に使って自分の来世のたくわえにするかの、どちらかしかないのです」(ムスリム)

アッラーの預言者(彼に平安と祝福あれ)こそは全てのムスリムたちが熱心に見習うべきお手本なのです。預言者の教友の一人、アブー・ザッルは言いました。預言者様(彼に平安と祝福あれ)はウフドの山へと歩きながらおっしゃりました。『アブー・ザッルよ!』私は答えました。『なんでしょう、アッラーの預言者様』彼はおっしゃりました。『私にウフド山の

ような黄金の山があったとしても三日で配りおえ、手元には借金を返すほどしか残らないでしょう』そして、アッラーの預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。『現世でもっとも裕福な者たちは、それを慈善事業についやす、実にわずかな人々を除いて、復活の日にもっとも貧しい者となるでしょう』(ブハーリーの伝承)



『信仰し、その心がアッラーの唱念で安らぐ者たち(を、お導きになるのだ)』(13:28)

アッラーの預言者(彼に平安と祝福あれ)こそは全てのムスリムたちが熱心に見習うべきお手本なのです。





イスラームの徳



意識の高い人は、豊かな人が貧しい人の財産を消費してゆく利子を正義であるとは言えないことにお気づきなのではないでしょうか。

イスラームによる人生の道は、教えに従い、避けるべき事柄をつつしむ人々を真の幸福に導いてくれます。従うことで何かを奪われる訳ではありません。イスラームは、わたしたちが創造主から授けられた神聖なる教えです。これからそれが役立つものであるかどうか、見てみることにしましょう。

01

利子:全能の神は、おっしゃりました。

『信仰する者たちよ、アッラーをおそれ、利息の残額を帳消しにせよ。もし、あなた方が信仰者であるのなら。』 (2:278)



豊かな人が、貧しい人の財産を消費してゆく利子を、正義と呼ぶことはできません。多くの人が、そう考えるのではないのでしょうか。簡単にいえば、利子は人の弱みにつけ込む欲張りなのです。経済学の観点から言えば、利子は富を少数の人のみに集約してしまいます。ムスリム以外でも多くの人が、このシステムの欠陥を指摘しています。

02

結婚外での性関係、不倫:

西洋社会に住む人ならば誰でも、性交渉の自由がどれほど重大な危険性をはらんでいるか、十分に理解していることでしょう。広範囲におよぶ性感染症の拡大が物語っています。高貴なる神は、おっしゃりました。

『また、姦淫には近づくな。実に、それは醜行であり、悪い道なのだから。』 (17:32)

預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「人々の間に結婚外での性関係や不倫が広まるようになったら、前の世代には知られていなかった病気が広がることでしょう」 (イブン・マージャによる伝承)

03

飲酒:飲酒の危険性は現代医学によって認められていません。全能の神はおっしゃりました。

『信仰する者たちよ、酒、賭け事、(アッラーを差しおいて崇めるために)立てられたもの、賭矢を引くことは、シャイターン(悪魔)の行いであり、けがれに外ならない。ゆえにあなた方が成功するように、それ(ら)を避けるのだ。まさにシャイターンは酒と賭け事で、あなた方の間に敵意や憎悪をもたらし、あなた方をアッラーの唱えや礼拝から妨害したいのである。では一体、あなた方は(それらを)止めるのか?』(5:90-91)

様々な医学的研究結果がアルコール摂取の危険性を訴えています。年間に数百万人がアルコールによって命を落としているのです。飲酒に関わる疾患には以下のようなものがあります。

- ・肝機能の衰え
- ・様々な癌
- ・食道炎、胃炎、膵炎、肝炎
- ・心筋症
- ・脳障害、認知症
- ・貧血、黄疸、血液異常
- ・胎児期アルコール依存症

様々な医学的研究結果がアルコール摂取の危険性を訴えています。年間に数百万人がアルコールによって命を落としているのです。



『そしてキサース刑(の定め)にこそ、あなた方にとって生命(の安全)がある』(2:179)

وَلَا تَتَّبِعُوا فِي مَالِكُمُ الْقِسَاسَ حَيَاةً



04

罰:全能の神はおっしゃりました。

『そして報復刑(の定め)にこそ、あなた方にとって生命(の安全)がある——澄んだ理性の持ち主たちよ——。あなた方が(アッラーを)おそれるように、それは定められたのだ。』(2:179)

全能の神こそが最も確かな真実を伝えて下さります。罰があるからこそ広範囲におよぶ社会、人命、財産、名誉を守ることができるのです。

システムを支えるには影響力を持つ何かしらの支援が必要です。罰という制度がなければ、赤信号を無視しても関係なくなってしまう。罰がなければ、平気で盗みを働く人もいます。有意義な抑止力は置かれるべきで、それが無ければ、たちまち混乱が広がってしまうでしょう。罰の実施は新しいものではありません。イスラーム以前に下された神の教えでも、馴染み深いものです。知識そのものである神は、おっしゃりました。

『また、われらはその(律法の)中で、彼らに(こう)定めた。命には命で、目には目で、鼻には鼻で、耳には耳で、歯には歯で(報われる)。そして傷害は、報復刑(による報い)なのだ。誰でも、それ(報復刑の執行)を免じてやる者は、それが自分への罪滅ぼしとなる。そして誰であろうと、アッラーが下されたもので裁かなかった者、それらの者たちこそは不正者なのである。』(5:45)

最も効果的に犯罪を社会から減らすことができるのは、どのような罰でしょうか。神の法律による罰は、人間の作り上げた法律よりも優れているのでしょうか?人間による法律は、虐げられている人々よりも、虐げる人々に有利に働く場合があります。権力者であれば、法に働きかけて罪を逃れることができるのです。イスラーム以上に効果的な法があることは、いまだに証明されていないのではないのでしょうか。

人間による法律は、虐げられている人々よりも、虐げる人々に有利に働く場合もあります。権力者であれば、法に働きかけて罪を逃れることができるのです。イスラーム以上に効果的な法があることは、いまだに証明されていないのではないのでしょうか。







幸福を
手にするために



神を信じることは、私たちに真実の幸福を与えてくれます。困難に直面した時には、それを和らげてくれるように、神に直接お願いすることができますのですから。

真実の幸福を手に入れるための基盤となる、六つの基本信条について。

01

第一の柱：神を信じ、その唯一性を信じること

誰であろうとアッラーを信じ、その唯一性を信じる人は幸福の道へと導かれるでしょう。そのような人の心は満ち足りており、純粋な落ち着きのなかで生きることが出来るのです。全能のアッラーは、おっしゃりました。

『信仰し、その心がアッラーの唱念で安らぐ者たち(を、アッラーはお導きになるのだ)。アッラーの唱念によってこそ、心は安らぐのではないか。』(13:28)

全てを創造され、またそれを支え続けておられる私たちの創造主。その偉大さが理解できれば、人は謙虚になるものです。創造主に並ぶことのできるものなど、ありません。全能の神はおっしゃりました。

『アッラーは、かれの外に(真に)崇拜すべきものがなく、永生するお方、全てを司るお方。まどろみも眠りも、かれを捉えることはない。諸天にあるものと、大地にあるものは(全て)、かれに属する。かれのお許しなくして、誰がかれの御もとで執り成すことが出来ようか?かれは、彼ら(全存在)の前にあるものも、彼らの背後にあるものも、ご存知である。そしてかれのお望みになることの外、彼らはかれの御知識について、何も把握することはないのだ。かれの玉座は、諸天と大地に広がり、その二つの護持が、かれを疲れさせることもない。そしてかれは至高のお方、この上なく偉大なお方であられる。』(2:255)

فَالْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ
فَالْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ

『本当に我は、(あなた方の)近くにある。われに祈れば、われは、祈る者の祈願にこたえよう。』(2:186)



神を信じることは、私たちに真実の幸福を与えてくれます。困難に直面した時には、それを和らげてくれるように、神に直接お願いすることができるのですから。神はおっしゃりました。

『そして(使徒よ、)わが僕たちが、われについてあなたに尋ねた時には、(われが、こう語っている、と言うのだ。)'「本当にわれは、(あなた方の)近くにある。われに祈れば、われは、祈る者の祈願に応えよう。ならば、彼らが正しく導かれるように、われ(の呼びかけ)に応えさせ、われを信仰させるのだ。』(2:186)

全能の神を信じることができないと、人は不幸を感じ、不安や苦悩に満ちた人生に取り残されてしまいます。天地の創造主である神は、全ての人間に、神を信じる心を授けてくださっています。以下の一節にあるように、簡単な推論から神を察することはできるものです。

『いや、彼らはいかなるものもなしに、創られたというのか? それとも彼らが創造者なのか?』(52:35)

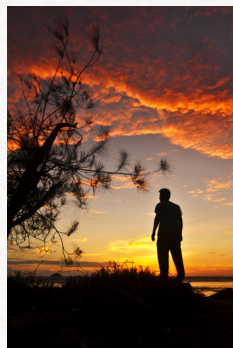
神への信仰は、唯一の創造主のみに固く結びつけておくべきです。神には、他のいかなる共同者も、結びつけてはいけません。神の位に共同者をならべる人の信仰は、無益なのです。全能の神はおっしゃりました。

『本当にアッラーは、かれと共に(何かが)並べられること(アラビア語で「シルク」)をお赦しになることはないが、それ以外のことは、御心に適う者にお赦しになる。アッラーに対してシルクを犯す者は誰でも、この上ない罪を確かに捏造しているのだ。』(4:48)

他の何かに結びつけて神を崇拜することは、神への敬意を損ねることになります。不完全なものはいかなる神性にも値せず、信仰となればなおのことです。全能の神はおっしゃりました。

『そこ(天地)にアッラー以外の神々がいたら、その二つ(天地)は損なわれてしまったであろう。彼らの言うようなことから(無縁な)、御座の主アッラーに称えあれ。』(21:22)

神への信仰は、唯一の創造主のみに固く結びつけておくべきです。神への信仰には、他のいかなる共同者も、結びつけてはいけません。神の位に共同者をならべる人の信仰は、無益なのです。



神以外のものを怖れることは、人をみじめにします。心にある恐怖を、悪魔に揺さぶられるからです。

神を信じることの徳

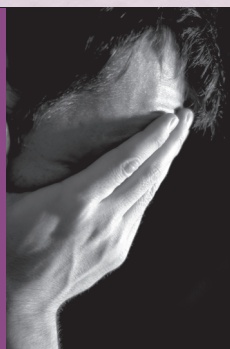
01 神を信じることは、あらゆる形の束縛や奴隷状態から私たちを解放してくれます。運命は神の手にあり、神の意思のみが、それを変えうるということを深く理解すれば、人は全ての精神的束縛から解放されて、神のみに従うようになります。至高の神はおっしゃりました。

『(使徒よ、) 言え。「諸天と大地の主は誰か？」言ってやるのだ。「(それは)アッラーである」。言うのだ。「(そのことを認めている)にも関わらず、一体あなた方はかれを差しおいて、自分自身への益も害も有さない庇護者を設けたというのか？」言え。「盲人と見える者は同じか?いや、闇と光は同じなのか?」いや、彼らはアッラーに、かれの創造と同様に創造し、それゆえに(それらの創造とアッラーの)創造が彼らにとって紛らわしくなってしまった同位者を設け(アッラーと共に崇拜し)ているのか?(使徒よ、)言うがよい。「アッラーは全てのものの創造主であり、かれは唯一のお方、君臨し給うお方である。』 (13:16)

02 全ての個人は、神のみを恐れ、かしこまるべきです。神以外のものを怖れることは、人をみじめにします。心にある恐怖を、悪魔に揺さぶられるからです。アッラーはおっしゃりました。

この世界にある全てのものが神を必要としても、至高なる神が、ご自身で創造なさったものを頼ったり、必要とすることはあり得ません。全能の神はおっしゃりました。

『アッラーは御子など設けてはおられないし、かれと共にある神なども一切ない。(もし) そうならば、きっと全ての神は自らが創ったものと共に(銘々に)去ってしまい、彼らは互いに君臨し(ようと)し合っ)たであろう。彼らの言うようなことから(無縁な)、アッラーに称えあれ。』 (23:91)



『実にあの者は、その盟友に対して(あなた方を)怖け気づかせるシャイターン(悪魔)なのだ。ならば彼らを怖れず、われを怖れよ。もし、あなたが信仰者であるならば。』(3:175)

03 神を信じると、人は勇敢になるものです。アッラーのご意志によって私たちは死を迎えます。地球上にいる期間は、アッラーによって定められているのです。全能の神はおっしゃりました。

『また、定められた期限というアッラーのお許しなくしては、誰も死ぬことがない。そして誰でも現世のほうびを望む者には、われらがそこから与えよう。また、誰でも来世のほうびを望む者には、われらがそこから与えよう。われらは感謝する者たちに、(善く)報いるのだ。』(3:145)

信仰を持たない人は、困難な時期に頼るものがないために、みじめな気持ちになってしまいます。全能の神の言葉は、まさに真実であると言えるでしょう。神はおっしゃりました。

『アッラーが誰かを導くことをお望みになれば、かれはその者の胸を服従(イスラーム)へと広げて下さる。また、かれが誰かを迷わせることをお望みになれば、かれはその者の胸をひどく狭められる。それは、あたかも(上)空に何とか昇ろうとするようなもの。同様にアッラーは、信仰しない者たちに穢れをお与えになるのだ。』(6:125)



فَمَنْ يَهْدِ اللَّهُ فَمَا لَمَّا يَهْدِ اللَّهُ

02

第二の柱:天使を信じること

天使たちは、目に見えない世界に属する存在です。私たちは、神の使徒たちが啓示によって伝えた内容からのみ、天使たちについて知ることができます。預言者たちと、使徒たちに、神の言葉を伝えたのも天使で、その役目を果たしたのが天使ガブリエルでした。至高の神は、おっしゃりました。

لِيَهْدِيَ اللَّهُ

『アッラーが誰かを導くことをお望みになれば、かれはその者の胸を服従(イスラーム)へと広げて下さる』(6:125)

天使たちは、目に見えない世界に属するものです。私たちは、神の使徒たちが啓示によって伝えられた内容からのみ、天使たちについて知ることができます。

『信仰する者たちよ、アッラーとかれの使徒、かれ(アッラー)がその使徒にお下しになった啓典(クルアーン)と、それ以前にかれがお下しになった(全ての)啓典を信じよ。そしてアッラーと諸天使、諸啓典、諸使徒、最後の日を否定する者は誰でも、実に(真理の道から)遙か遠く迷い去っているのだ。』(4:136)

03

第三の柱:全ての啓典を信じること

これらの啓典には、信仰者たちが人生で成功するための教えが記されています。その教えを実践することで私たちは、個人、社会、政治の全てにおける真の安定を経験するのです。神はおっしゃりました。

『男性であれ女性であれ、誰であろうと信仰者で正しい行いを行う者、われらはその者に、必ずやよい暮らしを送らせよう。そしてわれらは彼らに対し、彼らが行っていた最善のもので、必ずや彼らのほうびを報いてやるのだ。』(16:97)

良き人生とは、生命の正しい歩みそのものであり、そのような人生こそが私たちの心に、満足と、本当の幸福を与えてくれるのです。全能の神はおっしゃりました。

『本当に、信仰する者たち、ユダヤ教徒である者たち、サービア教徒たち、キリスト教徒たちで、アッラーと最後の日を信じて正しい行いを行う者、彼らには、怖れもなければ、悲しむこともない。』(5:69)

イスラームの教えによる幸福

イスラームの教えは、敬虔なムスリムたちの教育に絶大なる影響力を持っています。それはマナー、倫理、考え方に影響を及ぼし、やがて人は幸福を確立するようになります。イスラームの教えこそがムスリムたちを、みじめさから遠ざけているのです。その教えには、アッラーとアッラーの使徒を愛することに始まる、以下の内容が含まれています。



01 アッラーと、アッラーの使徒を愛すること

その愛を深めるために、アッラーとその使徒は、信者たちに慈善活動を勧めました。

「幸せはお金では買えない」と言いますが、愛や幸福を手に入れるために、人は山ほどの財産を使うものです。愛や幸福の価値を聞かれれば、多くの人はこう答えます。愛に値段はつけられず、幸福には代価を支払うだけの価値があると。そして私たちが努力して、この人生で到達すべきゴールとは、神への深い愛を持つことなのです。神はおっしゃりました。

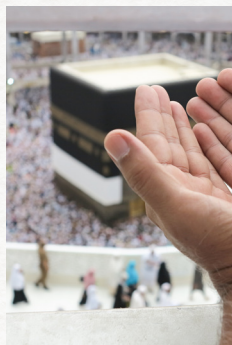
『また、人々の中には、アッラーを差しおいて同位者を設けて（て崇拜する）者たちがいる。彼らはそれらを、あたかもアッラーへの愛情のごとく愛する——信仰する者たちのアッラーに対する愛情は、（そのような者たちの愛情）より強烈なのだが——。それで、もし（そのような）不正を働いた者たちが（来世の）懲罰を目の当たりにする時、（それを）見るならば、全ての力はアッラーにのみ属し、アッラーは懲罰が厳しいお方である（ことを、思い知っただろう）。』（2:165）

預言者の教友たちは、アッラーとその使徒を非常に深く愛していました。教友フバイブ・ビン・アディは多神教徒に拷問されて、「最後に何か願いはあるか？」と言われた際に、「礼拝をさせてください」と言い、それを許されました。彼は、処刑前に礼拝を捧げた最初の信者でした。

礼拝を終えると彼は言いました。「アッラーにかけて、死を恐れているなどと言われる恐れがなければ、私はもっと長く礼拝をしたでしょう」処刑人たちは聞きました。「預言者ムハンマドがお前の身代わりだったら、そして、お前が家族と無事にいられたらと思わないか？」彼は答えました。「アッラーにかけて、私と家族の無事のために、ムハンマド様が危険にさらされることなど望みはしません！」

不幸なのは、アッラーとその使徒への愛よりも自分の欲望を大切にする人なのです。アッラーはおっしゃります。

アッラーとその使徒を愛することは、その愛を確かなものにするために、信仰者をアッラーの道における慈善事業へと駆りたてます。



『(使徒よ、) 言ってやるがいい。「あなた方の親、あなた方の子供、あなた方の兄弟、あなた方の配偶者、あなた方の近親、あなた方の稼いだ財産、また、あなた方がその不振を怖れている商売、あなた方が満足する住まいが、アッラーとその使徒、そしてかれの道における努力奮闘よりもあなた方にとって愛おしいならば、アッラーがそのご命令をもたらされるまで待つがよい。アッラーは、放逸な民をお導きにはならないのだ。』 (9:24)

アッラーとその使徒のために何かを愛するとき、人は喜んで献身的になるものです。このような愛こそ不滅であり、このような愛によって信仰者はこの上ない幸福を味わうのです。全能の神はおっしゃりました。

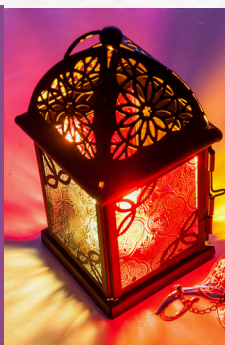
『また、彼ら(移住)以前に、その町(マディーナ)に信仰心と共に居を定めた者たち。彼らは自分たち(のもとに)移住した者を愛し、彼ら(移住者たち)が与えられたものについて、その胸中に嫉妬の念を見出さず、(彼らのことを)自分たち自身よりも優先する。たとえ彼らに、必要性があったとしても、である。自分自身の貪欲さから守られた者、それらの者たちこそは成功者なのだ。』 (59:9)

預言者(平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「3つの特徴を備える人が、信仰の甘さを味わうのです。アッラーと、アッラーの預言者のことを全世界の何よりも愛する人、神のために愛する人、不信仰に戻ることを地獄の炎に投げ入れられることと同じように嫌う人」 (ブハーリーによる伝承)

このような愛を得ることは、自分自身を困難、苦勞、復活の日の試練から救う方法でもあります。預言者(平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「アッラー以外に守ってくれるものが何もなくなる日に、七種類の人がアッラーの影によって守られるでしょう。正しい統治者、アッラーを崇拜しながら育った若者、モスクを愛する心をもつ人、アッラーのために愛しあい、またアッラーのために別れる二人、裕福な女性に誘惑されても『私はアッラーを怖れます』とい



う男性。左手が気づかないうちに右手で密かに寄付をする人、アッラーのことを思い出して涙する人」(ブハーリーによる伝承)

アッラーを崇拜して、その教えに従うことで、私たちはそれまで支配されていた欲望や、気まぐれから解放されるのです。アッラーの教えに従い、禁じられたことを控えることで、欲望を克服し、悪魔をくじき、本当の幸福を手に入れるのです。イスラームは私たちの人生や、財産、時間を神の道のために使うように教えています。イスラームの実践は一時的な努力ではなく、人生の道です。アッラーはおっしゃりました。

『言え。「本当に私の礼拝も犠牲も、生も死も、全創造物の主アッラーのためのみ。』(6:162)

天使たち、預言者たち、神の使徒たちは、みな神に正しく従っていました。アッラーはおっしゃりました。

『マスィーフ(イエス・キリスト)は断じて、アッラーの僕であることを尊大にも拒んだりはしない。また、かれのお傍に仕える天使たちも(同様である)。そして誰であろうと、かれ(アッラー)の崇拜を尊大にも拒み、思い上がる者は、かれがやがて(その行いに対して報いるべく)かれの御もとに全員、召集し給う。』(4:172)

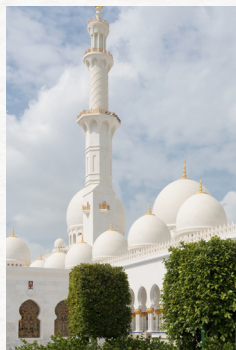
世界に創造された全てのものはアッラーに従うことで、神の偉大さを証明しています。アッラーはおっしゃります。

『七層の天と、大地、そこにある(全ての)ものは、かれをこそ称える。そしてありとあらゆるものは、かれの称賛と共に(かれを)称えるのだ。しかし(人々よ)、あなた方はそれらの称揚を理解しない。本当にかれはもとより、寛大なお方、赦し深いお方である。』(17:44)

アッラーに従うことなく背を向ける人は、人生の指針がないために不幸になり、本当の幸福を得ることができません。アッラーはおっしゃります。

『また、わが教訓に背を向ける者、本当に彼には苦しい生活がある。そしてわれらは復活の日、彼を盲目にして集めるのだ。』(20:124)

このような愛を得ることは、自分自身を困難、苦勞、復活の日の試練から救う方法でもあります。



モンゴメリー・ワットは著書『イスラームとは何か』で語っています。「西洋人の中には、宗教を支配者階級が人々を従わせ、搾取するために発展させた麻薬のようなものであると考える人もいます。」

モンゴメリー・ワットは著書『イスラームとは何か』でこう語ります。「イスラームに出会うヨーロッパやアメリカの学生にとっての問題は、偏見だけなのです。イスラームを『クルアーンの宗教』であつたり、『4億人のムスリムの宗教』などと説明しても、それは宗教の外側を説明しているにすぎません。西洋において、宗教は何を意味しているのでしょうか。日曜日に一時間ほど、仕事や日常生活の問題について祈ったり、他人と親身に接したり、性的な倫理を守ったり、といった具合で、商業や経済、政治や産業とはほとんど関係がなく、悪い場合には裕福な者たちの自己満足を助長したり、自惚れを深めている場合もあります。西洋人の中には、宗教を支配者階級が人々を従わせ、搾取するために発展させた麻薬のようなものであると考える人もいます。ムスリムにとっての宗教は、クルアーンの一節が示すように、およそかけ離れた意味を持っています。

『本当にアッラーの御もとにおける(真の)宗教は、イスラーム(主の意志に服従、帰依すること)である。』(3:19)

アラビア語で宗教を表す単語、ディーン〔=宗教〕には人生の道という意味が含まれています。これは個人的な出来事や、人生のごくわずかな部分だけを扱うのではなく、公私を問わず人間が考えるべきである基本的な社会構造全体、神学上の教義、信仰の形、政治論、経営理念、さらには衛生学や礼儀作法をも含むのです(注1)

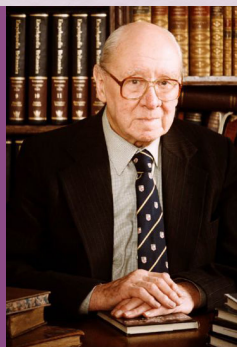
注1：モンゴメリー・ワットはスコットランドの東洋学者

端的に言えば、人はアッラーに背を向けると、悪魔のささやきに流されることになります。アッラーはおっしゃります。

『慈悲あまねきお方(アッラー)の教訓(クルアーン)に目をつむる者があれば、われらはその者にシャイターン(悪魔)をあてがい、彼(悪魔)はその者の相棒となろう。』(43:36)

悪魔は人をみじめにする、ということを自ら宣言しています。

『彼(悪魔イブリース)は、申し上げた。「我が主よ、あなたが私を誤らせられたのですから、私は必ずや地上で、彼ら(人類)に、(あなたへの不服従を)目映くして見せ、彼ら全員を必ずや、(正しい道から)踏み誤らせてみせましょう。』(15:39)



アッラーを崇拜することは、並ぶことのない無限の幸福を与えてくれます。あるムスリムはその幸せをこう表現します。「もし王たちや、その子供たちが私たちの幸せを知ったならば、剣を持ってそれを勝ち取りにくるだろう」

02 永遠の幸福の秘訣とは何か？

私たちが本当の幸せへと導いてくれる行動は、同時に、私たちを祝福された来世の生活へと導いてくれる行動でもあります。これこそが常にムスリムを、さらなる善へと努力させる動機なのです。至高の神は、おっしゃりました。

『また幸福な者たちはといえば、天国の中にある。諸天と大地が続く限り、永遠にそこに留まる。ただし、あなたの主がお望みになったことは別だが、(アッラーは)途絶えることのない賜物(を、彼ら幸福な者たちにお与えになる)。』(11:108)

私たちは大金持ちになることなどを目標にすべきではありません。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「現世は信仰者にとっての牢獄であり、不信仰者にとっての楽園である。」(アブー・ダーウードによる伝承)

ひょっとすると、現実には貧困に苦しむ不信仰者がいる一方で、大金持ちの信仰者がいる場合もあるのではないかとと思われる方もいるかもしれませんが。それに対する答えは以下の物語が明確にしてくれるでしょう。

エジプトの最高法官であったイブン・ハジャル・アルアスカラーニー(彼にアッラーのご慈悲あれ)はユダヤ教徒に呼び止められて、こう質問されました。「現世は信仰者にとっての牢獄で、不信仰者にとっては楽園だという預言者(彼に平安と祝福あれ)の言葉をどのようにお考えでしょう。私はムスリムではありませんが貧乏で、あなたはとても裕福なムスリムです」イブン・ハジャルは答えました。「貧乏だとしてもなお、あなたは楽園にいると言えるでしょう。不信仰者のことを来世で待っている罰は、究極の苦痛だからです。そして、どんなに美しいローブを着ていても、アッラーが私をジャンナ(注1)に入れて下さる

私たちが本当の幸せへと導いてくれる行動は、同時に、私たちを祝福された来世の生活へと導いてくれる行動でもあります。これこそが常にムスリムを、さらなる善へと努力させる動機なのです。



注1：ジャンナは信仰者が来世で授かる天国の住まいであり、信仰者はそこで永遠の祝福を受けとる。

のであれば、現世で楽しんでいる祝福など無に等しく、天国での喜びと比べることなど到底できないのですから。」この言葉を聞いて、貧しい男はイスラームを受け入れました。

イスラームは信仰者に、現世での生活を過大評価しないように教えています。ムスリムは取るに足らないことが明らかなものを、深く楽しんだりはしません。教友サハル・ビン・サアドが伝えている、このような預言者（彼に平安と祝福あれ）の伝承があります。

「ズルフライファに預言者様といた時のことでした。死んでおくんだ羊を見て、彼はおっしゃりました。『この羊の持ち主が、羊に悩まされているのがわかりますか。私の命がその手にあるお方にかけて、アッラーにとってこの世界は、羊飼いにとってのこの羊ほどの価値すらありません。この世界がアッラーにとって、ハエの羽ほどでも価値あるものだったならば、不信仰者には一滴の水すらお与えにならないでしょう』（注1）」

（イブン・マージャによる伝承）

03 アッラーの使徒たちと預言者たちは、最もアッラーに愛された人たちであった

すべての使徒たちと預言者たちは試練と困難にあいました。ある者は殺され、ある者は故郷から追放され、ある者は迫害されました。アッラーに愛されていた彼らですら困難にあったのですから、私たちにだって困難にあう可能性はあるのです。試練にあった時には、くよくよするべきではありません。むしろ困難な道こそが、信仰の甘美と、真実の幸福を味わう道なのであると揺るがないようにすべきです。

注1: この意味としては、「この世はアッラーにとってハエの羽ほどの価値もない。もし価値あるものだったら、不信仰者にはわずかなものすら与えなかった」つまり財産や権力などアッラーにとっては重要ではないという意味。



預言者ノアについてアッラーはおっしゃりました。

『われらは確かにノアをその民につかわし、彼はその中で（アッラーの教えへと招きつつ、）千年から五十年差し引いた年月を過ごした。そして（彼らが信じなかったので、）不正者であった彼らを、洪水が捕らえた。』（29:14）



アッラーは預言者アブラハムについて私たちにこうお伝えになっています。

『そして彼(アブラハム)の民の返答は、「彼を殺すか、焼いてしまえ」と言うものだけだった。(彼らはアブラハムを火の中に放り込んだが、)アッラーは彼を火からお救いになった。本当にその中にはまさしく、信仰する民への御しるしがある。』(29:24)



アッラーは預言者モーゼについておっしゃりました。

『フィルアウンは、(自分の民の有力者たちに)言った。「私にモーゼを殺させ、彼を自分の主に祈らせてみよ。本当に私は、彼があなた方の宗教を変えてしまったり、地上(エジプト)に腐敗を出現させたりすることを怖れているのだ。』(40:26)



アッラーは預言者シュアイブについておっしゃりました。

『彼の民の内、(信仰に対して)高慢だった有力者たちは言った。「シュアイブよ、私たちは必ずやあなたと、あなたと共に信仰した者たちを、私たちの町から追放しよう。さもなくば、あなた方は絶対に私たちの宗教に戻るのだ」。彼(シュアイブ)は言った。「たとえ私たちが、(そのような宗教を)毛嫌いしていたとしてもか?』(7:88)



アッラーは預言者サーリフについておっしゃりました。

『彼ら(サムードの民)は、言った。「サーリフよ、あなたはこれ以前、私たちの間で確かに期待された人物であった。一体あなたは、私たちが、私たちがご先祖様が崇めるものを崇めることを、禁じるのか?本当に私たちは、あなたが私たちを招いているものに対する、大きな疑惑の真ただ中にあるというのに。』(11:62)



アッラーは預言者ロトについておっしゃりました。

『その民の答えは、(このように)言うことだけであった。「ロト



ムハンマドはアッラーの
預言者なり

欲望を満たすためだけに生きていては、本当の幸福を感じることはできません。

の家族を、あなた方の町から追放するのだ。本当に彼らは、潔癖ぶった人々なのだから。』(27:56)



アッラーは預言者イエス・キリストについておっしゃりました。

『また彼らの、「本当に私たちはマシーフ(メシア)、アッラーの使徒であるマルヤム(マリア)の息子イエスを、殺したぞ」という言葉ゆえに(、われらは彼らを呪ったのだ)。彼らは、彼を殺してもいなければ、はりつけの刑にもしていない。だが、彼らには似通って見えたのだ。本当に、彼について意見を異にした者たちは、まさしくそこにおいて疑念の中にあつた。彼らはそのことについて僅かばかりの知識もなく、ただ憶測に従っていたに過ぎない。そして彼らは、確信をもって彼を殺したわけではなかったのだ。』(4:157)



アッラーは預言者ムハンマドについておっしゃりました。

『われらは、本当に彼らの言うことがあなたを悲しませることを、確かに知っている。(だが、悲しむのではない。)というのも、彼らは(確信を持って)あなたを嘘つき呼ばわりしているのではないのだ。だが不正者たちはアッラーの御しるしを、否定しているのである。』(6:33)



サウジ・アラビアのマディーナにある預言者モスクは、イスラームにおける二番目に神聖なモスク。

04 ムスリムにとっての偉大なるゴールとは何か

ムスリムにとってのゴール、それはアッラーのご慈愛と天国を手に入れることです。それを手に入れることができるのは、人生を終えてからです。それを手に入れるために、ムスリムたちは死ぬまで努力奮闘を続けます。一方で神を信じない人達は、現世におけるゴールを達成して、つかの間の幸せを経験した瞬間に、ふと思うのです。さて、次は何をするべきなのか。このような不安を感じるのは、精神的に不安定な状態にあるからです。欲望を満たすためだけに生きていては、本当の幸福を感じることはできません。アッラーはこのような状態の人々について、おっしゃりました。

『本当にアッラーは、信仰し、正しい行いを行う者たちを、その下から河川が流れる樂園に入れて下さる。一方、不信仰に陥った者たちは(現世を)楽しみ、まるで家畜が食べるように(ひたすら)食べている。(地獄の)業火が、彼らの住処なのだ。』(47:12)

どれほどの学位を持っていたとしても、自分たちの創造主を理解することができなければ、その知識が有益であるとは言えません。アッラーはおっしゃります。

『いや、あなたは、彼らの大半が(クルアーンを熟慮して)聞いていると、あるいは分別していると思っているのか?彼らは家畜のようなものに外ならない。いや、彼らは(それら)より道に迷っているのだ。』(25:44)

ある詩人は言います。『死者や、死者がたどった末路ではなく、成功者がどのように成功したかを見なさい』。アッラーはおっしゃります。

『われらは確かに、多くのジン(精霊的存在)と人間を地獄のために創った。彼らには理解することのない心があり、見るこ

とのない眼があり、聞くことのない耳がある。それらの者たちは家畜のよう。いや、彼らは(それら)よりひどく迷っている。それらの者たちこそは、(信仰に)無頓着な者たちなのだ。』(7:179)

これは現世の生活をほったらかしにして人の厄介になれという意味ではありません。アッラーは信仰者たちに、現世においても努力奮闘し、生活の糧を得るために一所懸命働くようにお教えになっています。これはシャリーア(注1)でも定められています。アッラーはおっしゃりました。

『かれはあなた方のため、大地を平坦にされたお方。ゆえにその方々を歩き、かれの糧から食べるがよい。そしてかれにこそ、(清算と報いのための)復活があるのだ。』(67:15)



『彼らは、彼を殺してもいなければ、はりつけの刑にもしていない。だが、彼らには似通って見えたのだ。』(4:157)

注1：シャリーアとは、イスラーム法のこと

人は意図によって、ほうびを受けます。もし裕福な人がアッラーの道においてほどこすならば、アッラーはその意図によるほうびを与えてくださるのです。

自分たちの生活に必要なものを得るためや、家族のために働くことや、神のお喜びになる慈善事業のために働くことで、私たちの来世での位階が上がってゆきます。アッラーはおっしゃります。

『アッラーの道において自らの財産を費やし、それから自分が費やしたものに、(施しを費やした相手に対する)恩着せがましさや害を伴わせない者たち、彼らには、その主の御もとにほうびがある。そして彼らには恐れもなければ、悲しむこともない』(2:262)

ムスリムに求められていることは人生を輝かせることであり、考えと行動を台無しにしてしまうことではありません。

「ほどこしをする手は、それを受け取る手より優れています。あなたが人助けのためにほどこしをする最善の手段は、裕福な時にほどこすことです。また誰でもほどこしから取るのを控える人を、アッラーは祝福されるでしょう。」(ブハーリーによる伝承)

人は意図によって、ほうびを受けます。もし裕福な人がアッラーの道においてほどこすならば、アッラーはその意図によるほうびを与えてくださるのです。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「世界は四種類の人のためにあります。アッラーから財産と知識を授けられてなお、アッラーを恐れ、家族の絆をたもつ人。彼らは自分たちの権利がアッラーによるものであることを理解しています。このような人たちは最も優れています。二番目の人たちは、アッラーから知識を授かったものの、財産は授からなかった人たちで、彼らがもし誠実な意図から『お金があったら、それをしかるべく使ったでしょう』と言えば、おなじ褒賞を受けるのです。」(ティルミズイーによる伝承)

05 人生の真実を知ること

イスラームはムスリムに、この世界の喜びは一時のものにすぎないと、はっきり教えています。アッラーはおっしゃります。



『欲望(を誘うものへの)愛情は、人々に煌びやかにされた。婦女、子供、莫大な金銀財宝、美しい馬、家ちく、農地。それらは、現世の生活における楽しみ。そしてアッラーの御もとにこそは、善い帰り所があるのだ。』(3:14)

アッラーは人生の短さについてこのようにおっしゃりました。

『(人々よ、)知るがよい、現世の生活は遊興、たわむれごと、飾り、自分たちの間の誇り合い、財産と子供の増やし合いに過ぎない。(それは)あたかも、その植物が農夫たちを喜ばせた慈雨のようである。やがてそれは枯れ、あなたはそれが黄色くなるのを目にし、ついにはそれは木っばみじんになってしまう。そして来世にこそ、(不信仰者に対する)厳しい懲罰と、(信仰者に対する)アッラーからのお赦しとお喜びがあるのだ。現世の生活は、いつわりの楽しみに過ぎない。』(57:20)

アッラーは現世とは、真実であり永遠である来世への、ほんのふみ台にすぎないとおっしゃりました。預言者(彼に平安と祝福あれ)は、この事について、教友ウマルに話しています。ある時、預言者の部屋に入ったウマルは、預言者の体に薫敷きのマットのあとが残っているのを見て、こう言いました。「アッラーの預言者様、よろしければ寝心地の良いベッドを持ってきましょう」預言者は答えました。「現世で何を求めるといいますか。現世での生活は、馬で出かけた人が木陰で少し休んでから出発するまでのような、わずかな期間でしかありません」(アフマドによる伝承)

人生とは心配と不幸に満ちたものであると、全能なるアッラーは明らかになさっています。楽しい日があれば、悲しい日もあります。笑う日があれば、泣く日もあるのです。

絶え間ない喜びなどというものは不可能なのです。それが人生における自然な状態なのですから。



『欲望(を誘うものへの)愛情は、人々に煌びやかにされた。』(3:14)

アッラーは人生の短さを明らかになさりました。人生は素晴らしい永遠の来世への踏み台に過ぎないのです。

私たちはこの世界に依存することで、来世を無視するべきではありません。預言者(彼に平安と祝福あれ)は教友アブドゥッラー・ビン・ウマルにおっしゃりました。

「現世においてはよそ者か、旅人のようでありなさい」
(ブハーリーによる伝承)

王様はどうでしょう。誰もが現世を楽しんでいると思う王達ですら、人が思うほど人生を楽しんでいる訳ではありません。スペインのウマイヤ朝のカリフの一人で、50年以上統治者だったアブドゥルラフマーン・アンナースィルが亡くなった際に、このような手記が発見されました。「実に、本当の意味で楽しかった日など、数えるほどしかなかった。」彼にとって完全なる喜びの日は、全人生のうちに14日間のみだったと言います。

ある詩人はこの人生の性質をこのように示しました。

人生は跡形もなく消えてゆく

全てはあつと言う間にやってきて、また過ぎてゆく

ひとときの楽しみがあっても、大半の時には悲しんでいる

このような詩人の言葉もあります。

誰もが人生に文句を言うが

おお人々よ、永遠に生きてゆけるとでも思っているのか？

信仰者はこのような現実を理解すると、来世のための準備を強く望むようになり、闇雲に人生に執着することを望まなくなります。物質世界への執着があると、何かが失われるたびに悲しくなり、それが幸せを台無しにしてしまうからです。アッラーはおっしゃりました。



الْبَلَاءُ الْجَدِيدُ الْيَوْمَ إِلَيْكَ يَا اللَّهُ سُبْحَانَكَ

ほどこしをする手は、それを受け取る手より優れている。(ブハーリーによる伝承)

『全ての者は、死を味わう。そして復活の日、あなた方は（現世での行いに対する）自分たちのほうびを、余すことなく授かるのだ。それで、誰でも（地獄の）業火から遠ざけられ、天国に入れられた者は、確かに（自分が望む最高のものを）勝ち取ったのである。現世の生活は、いつわりの楽しみにすぎない。』(3:185)

信仰者はこのような現実を理解すると、来世のための準備を強く望むようになり、闇雲に人生に執着することを望まなくなります。

06 善い人間とすどし、悪い人間を避ける

友人の影響について否定できる人はいないでしょう。『類は友を呼ぶ』とはよく言ったものです。友人は私たちを、善くも悪くもします。友人はあなたを幸福にも、みじめにもするのです。アッラーの使徒（彼に平安と祝福あれ）はおっしゃりました。

『善い友達と悪い友達は、香水売りと鍛冶屋のようなものです。香水売りは、売るにせよ、そうでないにせよ、あなたをいい香りにしてくれるものです。一方で、鍛冶屋はあなたの服を焦がすか、少なくとも嫌な匂いを残してゆくのです』（プハーリーによる伝承）

善い友達は困難の時にも心強い味方となります。災難が降りかかれば助けてくれて、感謝を忘れてしまう時には神を思い出させてくれるでしょう。悪い友達は反対で、あなたが必要な時に、真っ先にあなたを見捨てることで、よりみじめな気持ちにさせるのです。



07 悪い行いをさける

悪い行いは人を不幸にし、本当の幸福を味わう妨げとなります。もっと言ってしまえば、罪を重ねることは、幸福の源であるアッラーとの関係を遠ざけてしまうのです。アッラーはおっしゃりました。

『断じて、（彼らの主張は正しく）ない！いや、彼らが稼いでいたもの（罪）が、その心にさびをつけたのである。』(83:14)

預言者（彼に平安と祝福あれ）はおっしゃりました。

「信仰者が罪を犯すと、心に黒いシミが残ります。彼が悔い改

善い友達は困難の時にも心強い味方となります。災難が降りかかれば助けてくれて、感謝を忘れてしまう時には神を思い出させてくれるでしょう。

めれば黒いシミは消えて、心は清められますが、罪を犯し続けるならば闇が広がります。これが、アッラーがクルアーンでおっしゃっているシミなのです」(イブン・マージャによる伝承)

ムスリムは罪を遠ざけなければいけません。罪の危険性について預言者(彼に平安と祝福あれ)はこうおっしゃりました。

「人は犯した罪によって、糧を得ることから遠ざけられてしまうのです」(イブン・ヒッバーンによる伝承)

罪を犯すとその不快さから、人はみじめな気持ちになるものです。預言者(彼に平安と祝福あれ)は罪について聞かれて、こう答えました。

「あなたの魂と、心に聞きなさい。正しさとは魂と心を満足させるものです。罪とは、たとえ人々からくり返し太鼓判を押されても、魂が動揺して、胸にためらいを起こさせるものです」

(スナン・アッダーリミーによる伝承)

08 前の世代に下された罰について

人は現世の生活が永遠に続くわけではない事を理解しなければなりません。どれだけ人類が進歩しようとも、世界は終わるのです。アッラーは、おっしゃります。

『一体彼らは、われらが彼ら以前に、どれだけ多くの(不信仰な)世代を滅ぼしてきたかを、知らないのか?われらは地上において彼らに、あなた方には授けなかった力を授けた。また、われらは彼らに豊かな雨を送り、彼らの下からは河川を走らせた。にも関わらず(彼らは不信仰に陥ったので、)われらは彼らをその罪ゆえに滅ぼし、彼らの後に別の世代を設けたのである。』(6:6)

アッラーはおっしゃります。

『一体、彼らは地上を旅し、彼ら以前の(不信仰)者たちの結末がいかなるものであったかを見なかったのか?その者たちは彼らよりも力が強く、大地を耕し、彼らがそれ(大地)を開拓したのよりも沢山、開拓したのだ。そして彼らの使徒たちは、明証を携えて彼らのもとに到来した。アッラーが彼らに不正を



働くなどということは、あり得べくもなかったのだ。しかし彼らが、自分自身に不正を働いていたのである。』(30:9)

アッラーはおっしゃります。

『また、アードとサムードも(、われらは滅ぼした)。彼らの住まいの一部は、あなた方に確かに明らかになっている。シャイターン(悪魔)が彼らに、彼らの行いを目映く見せ、彼らを(アッラーの)道から阻んだのだ。彼らは、(真理を見極める)見識を備えた者たちだったというのに。』(29:38)

アッラーはおっしゃります。

『われらはその暮らし向きに思い上がった、どれだけ多くの(不信仰な)町(の人々)を滅ぼしてきたのか?そして、それらが(廃墟と化した)彼らの住居である。(その内)僅かなものを除いては、彼らの(滅亡)後、居住されることはなかったのだ。われらこそはもとより、相続者なのである。』(28:58)

現世の生活が一時的なものに過ぎないことを理解すると、信仰者は幸福を感じて、アッラーのご意志に従うようになります。アッラーはおっしゃります。

『(使徒よ、)人々に警告せよ、彼らに懲罰が到来し、(不信仰という)不正を働いた者たちが(、こう)言う(復活の)日のことを。「我らが主よ、短い期間だけ、私たちに猶予をお授け下さい。あなたの呼びかけに応え、使徒たちに従いますから」。(すると、彼らにこう言われる。)
「あなた方は以前、自分たちには(現世から来世への)移転などない、誓いを立てたのではなかったか?また、あなた方は、自らに不正を働いた(過去の不信仰)者たちの住処に滞在した。われらが彼らに対していかなる仕打ちをしたか、あなた方には明らかになったのである。われらは(このクルアーンの中で)、あなた方にいくつものたとえを挙げたのだ。』(14:44-5)

人は現世の生活が永遠に続くわけではない事を理解しなければなりません。どれだけ人類が進歩しようとも、世界は終わるのです。



09

自分よりも不幸な人について考えてみる

ほとんどの人は、財産に恵まれていることに気づいてもいません。そして、それを失った時に、ようやく気がつくのです。困

困ったときには、自分よりも不幸な境遇にいる人について考えてみてください。病気になっても動けるならば、寝たきりの人について考えてみてください。病気になっても動けるならば、寝たきりの人について考えてみてください。

困ったときには、自分よりも不幸な境遇にいる人について考えてみてください。病気になっても動けるならば、寝たきりの人について考えてみてください。預言者(彼に平安と祝福あれ)は言いました。

「あなたより恵まれない人をご覧ください。あなたより幸運な人を見てはいけません。それはアッラーからのお恵みや祝福を、軽視させてしまうからです」(プハーリーとムスリムの伝承)

恵まれない人を見れば、自分が授かったアッラーからの慈悲に気付いて満足できるものです。

こんな話があります。男が貧乏に困っているとグチを言いに来たので、学者がたずねました。

「あなたは視力を10万枚の銀貨と取り換えますか?」男は答えました。「まさか!」学者は聞きました。「手はどうです? 10万枚の銀貨です」男は答えました。「絶対に嫌です!」学者は聞きました。「足は? 10万枚の銀貨です」男は答えました。「絶対に嫌です!」学者は言いました。「あなたは何千万もの銀貨に値する祝福とめぐみを受けているのに、まだグチを言うのですか?」

また来世のことを考えて自分を成長させるためには、自分より優れた人から学ぶことも大切です。

10 アッラーの教えに喜びを感じたときに得られる満足

欲望を遠ざけて、アッラーのご意志に従うことで、私たちは純粋な満足を得ることができます。クルアーンの教えと預言者の習慣は、このような幸福を信仰者たちの心に広げる大きな力を持っています。その教えによって私たちは、不満につながる悪や憎しみをさけて、平和的な人生を送ることが出来ます。その教えに従う人たちは、間違いなく幸福な人生を送ります。アッラーはおっしゃいました。

『また、われらが彼ら(不信仰者)の内の様々な者たちを楽しませているものに、決してあなたの(羨望の)視線をくぎ付け



にするのではない。(それは、)われらがそれで彼らを試練にかけるための、現世の生活の飾りなのである。あなたの主の糧は、(彼らが味わっている享楽)より善く、より永く続くものなのだ。』(20:131)

預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「アッラーに従う人は成功し、十分な糧を得るでしょう。そしてアッラーは彼を満足させて下さるのです」(ムスリムによる伝承)

アッラーの預言者(彼に平安と祝福あれ)が伝えているように、この世界に対する愛情は、誰もが備えている自然な性質なのです。

「人間というものは、二つの谷いっぱい財産があっても、三つ目を求めるものです。人を満足させるものは、土だけだというのに。(注1)ゆるしを求める人のことを、アッラーはおゆるしになります」(ブハーリーによる伝承)

預言者(彼に平安と祝福あれ)はムスリムたちに、自分が所有するもので満足するように教え、導きました。

預言者(彼に平安と祝福あれ)はこう伝えました。

「家で無事に目覚めて、健康で、その日食べるものがあるならば、全世界を与えられたようなものなのです」(ティルミズィーによる伝承)

この言葉について深く考えてみると、それこそが人生で必要なものなのだと気がつくはずです。明日起きる事についてご存知なのはアッラーだけです。私たちが明日まで生きているという保証はどこにもありません。銀行預金が残っているかもわかりません。突然の事故で亡くなってしまうことだってあるのです。アッラーは仰っています。

『本当にアッラー、かれの御もとにこそ、(復活の日の)その時の知識がある。またかれは慈雨をお降らしになり、子宮の中にあるものをご存知になる。そしていかなる者も、自分が明日かせぐことになるものを知らず、いかなる者も、自分がいずこの

クルアーンの教えと預言者の習慣は信仰者たちの心に幸福を広げる偉大な力を持っています。その教えによって私たちは、不満につながる悪や憎しみをさけて、平和的な人生を送ることが出来るのです。



注1: 現世の物質的なものに対する願望がなくなる死の時まで、人は満たされることがないということ。

預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。「アッラーに従う人は成功し、十分な糧を得るでしょう。そしてアッラーは彼を満足させて下さるのです。」

地で死ぬことになるかを知らないのだ。本当にアッラーは、全知者、(全てに)通ぎようされるお方。』(31:34)

11 アッラーのご意思に従い、アッラーのみに身をゆだねる

アッラーこそが全てを支えて下さっている御方。彼はお望みの者にお与えになり、お望みの者からお控えになるのです。彼はお望みの者に権力と高潔さを与え、お望みの者を弱くみじめになさるのです。アッラーはおっしゃります。

『(預言者よ、祈って)言うがよい。「王権の所有者アッラーよ、あなたは、あなたが お望みの者に王権をお与えになり、あなたが お望みの者から王権を剥奪されます。また、あなたが お望みの者に権勢をお与えになり、あなたが お望みの者を卑しめられます。あなたの御手にこそ、善きものはあります。本当にあなたは、全てのことがお出来になるお方なのですから。』(3:26)

私たちが人生で得ることになる全ての糧が、母親の胎内にいる時に既に決められている事を理解すれば、失われた機会にくよくよする事も無くなるものです。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「本当にあなた方はみな四十日間、母親の胎内に一滴の液体としてあり、それから凝血となり、やがてひとかたまりの肉となるのです。そして魂をふきこむ天使が、四つのことを書き留めるのです。生涯の糧、寿命、その行動、幸福になるか不幸になるか(天国に入るか入らないかに関わらず)。」(プハーリー

による伝承)

『あなたは、あなたが お望みの者に王権をお与えになり、』(3:26)

人は神に定められたものを全て受け取るまで、人生を去ることはないのです。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「どのような人も、アッラーから与えられた期間と糧を全うするまで、この人生を去ることはありません。だからアッ



ラーに求めなさい。あなたの願いに対する答えが遅れたとしても、不法なものに求めるべきではありません。アッラーに従う人だけが祝福を得るのですから」(タバラーニーによる伝承)

私たちが人生で得ることになる全ての糧が、母親の胎内にいる時には既に決められている事を理解すれば、失われた機会にくよくよする事も無くなるものです。

12 悪く見えても、アッラーから与えられたものを喜ぶべきである

アッラーはおっしゃります。

『信仰する者たちよ、嫌がる女性(自身)を相続することは、あなた方に許されない。また、あなた方(夫)は、(婚資金として)妻に贈った物の一部を持ち去ろうとして、彼女らに嫌がらせをしてはならない。ただし、彼女らがまぎれもない醜行を働いた場合は別である。また妻とは、適切な形で付き合うのだ。もし、あなた方が(何らかの現世的理由ゆえに)彼女らを嫌ったとしても、(忍耐せよ)。あなた方は、アッラーがそこに沢山の善きものをご用意下さっているものを、嫌っているのかもしれないのだから。』(4:19)

あなた自身が、そうと分からず嫌っていることが、実は、あなたにとって良い事である場合もあるのです。アッラーはおっしゃります。

『(信仰者たちよ、)戦いが、あなた方に義務づけられた。そしてそれは、あなた方にとって嫌なもの。あなた方は自分たちにとって善いことを嫌うかもしれないし、自分たちにとって悪いことを好むかもしれない。アッラーが(あなた方にとって真に良いこと)をご存知なのであり、あなた方は知らないのである。』(2:216)



وَمَا آتَاكُم مِّن شَيْءٍ فَلْيَافَقَا بِالْحَمْدِ لِرَبِّكُمْ لَعَلَّكُمْ تَعْلَمُونَ

『また妻とは、適切な形で付き合うのだ。』(4:19)

アッラーが神の知識において、ある人々に、他の人々より多くの現世的な所有物をお与えになる事を理解しなければなりません。

13 アッラーは神の知識のもと、ある人々に、他の人々より多くの現世的な所有物を与えられる

アッラーはおっしゃります。

『また、アッラーは糧において、あなた方のある者を別の者よりも、お引き立てになった。そして(糧において)引き立てられた者たちは、自分たちの右手が所有するもの(奴隷)にその糧を還元し、それ(の所有)において彼らが(自分たちと)同等となるようにはしない。一体、彼らはアッラーの恩恵を否定するのか?』(16:71)

アッラーはおっしゃります。

『見よ、われらがいかに彼らのある者を別の者より引き立てたか?来世こそは(信仰者にとって)より位が高く、より優れたものなのだが。』(17:21)

14 他人を妬んだり、人のものを欲しがったりすべきではない

アッラーはおっしゃります。

『言ってやれ。「本当に我が主は、その僕たちの内、かれがお望みの者に糧を豊富に与えられ、またその者に(それを)控えられる。そして、あなた方がどんなものでも(アッラーに命じられたことに)費やせば、かれはそれを(ほうびで)継がせ給う。かれは、最もよく糧を授けられるお方」。』(34:39)

欲望に支配されることは心の満足を邪魔するので、ムスリムはそれを避けるように教えられています。アッラーはおっしゃります。

『アッラーがあなた方のある者に対し、他の者よりも多くお恵みになったものに関して、羨望するのではない。』

男たちには彼らが稼いだもの(行い)による取り分があり、女たちにも彼女らが稼いだもの(行い)による取り分があるのだ。(羨望する代わりに)アッラーの恩寵を乞うがよい。本当にアッラーはもとより、全てのことをご存知であられるお方なのだから。』(4:32)



アッラーはムスリムたちに、自分のしたことを細かく反省するように教えられています。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「賢い人とは、自分の行いを反省して、死後に備えた行動をする人です。間違える人とは、気まぐれで、行動もせずに楽観的に考える人です」 (ティルミズイーによる伝承)

15 ねたみ、憎しみ、恨みを遠ざける

これらは幸せを台無しにして、人をみじめにする危険な病です。アッラーに与えられたものに満足せず、人の持ち物をねたんだりすれば、誰でも嫌な気持ちになるものです。アッラーはおっしゃりました。

『いや、彼らはアッラーがお授けになった恩寵に対して、人々を妬んでいるのか？われらは確かに、アブラハムの一族に啓典と英知を授けたのであり、彼らに偉大なる王権を与えたのだ。』 (4:54)

嫉妬による傲慢さは、かつて犯された最初の罪でした。アッラーはアダムを創造して、天使たちにひれ伏すように命じた時に、悪魔が何をしたかをお伝えになっています。

『彼(悪魔)は、(アッラーに)申し上げた。「仰って下さい。これが、あなたが私よりもお引き立てになった者です(が、そのわけは何ですか)。もしもあなたが、私に復活の日まで猶予を授けて下さったなら、私は(精選された)僅かな者たちを除き、必ずやその子孫を(誘惑と腐敗によって)思い通りにしてみせましょう。』 (17:62)



وَلَا تَحْسَبَنَّ أَنَّكَ سَأَلَ السَّائِلِينَ
 وَاللَّيْسَ بِكَ سَأَلَ السَّائِلِينَ

『かれは、最もよく糧を授けられるお方。』(34:39)

アッラーの使徒(彼に平安と祝福あれ)は信者たちに、この病を注意されました。

「お互いを妬んではいけません。値段を釣り上げてはいけません。憎しみあってもいけません。お互いに背をむけあったり、取引で損をさせてはいけません。むしろアッラーのしもべとして兄弟となりなさい。ムスリムはムスリムの兄弟であり、迫害してはならず、おとしめてもならず、嘘をついても、軽蔑してもいけません。信仰の深さはここにありますが(と、三回胸を指されました)。おなじムスリムをさげすむのは、十分に邪悪なことです。ムスリムはムスリムにとって神聖な存在なのです。その血と、財産と、名誉において」(ムスリムによる伝承)

アッラーは、自分を愛するように他人を愛しなさいとお教えになりました。彼はおっしゃりました。

『また、彼ら(移住者、援助者たち)の後にやって来た者たちで、(こう)言う者たち。「我らが主よ、私たちと、信仰において私たちに先がけた私たちの兄弟たち(の罪)をお赦し下さい。そして私たちの心の内に、信仰する者たちへの憎しみの念をわかせないで下さい。我らが主よ、本当にあなたは哀れみ深いお方、慈愛深いお方です」。』(59:10)

兄弟姉妹であるムスリムへの、正しさと幸運を願う気持ちは誠実な心からやってきます。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「兄弟のために祈る人のために、天使はこう言うのです『アーミン、あなたにも同じものがありますように』」(ムスリムによる伝承)

16 傲慢さと下品な行いを避ける

傲慢な人は幸福になれず、軽蔑されてしまいます。人を嫌い、また嫌われるような人が、どのような幸福を感じられるのでしょうか?アッラーはおっしゃりました。

『アッラーの御しるし(を拒むこと)において、(アッラーの御もとから)到来した根拠もなく議論する者たち、(そのような議



「ムスリムはムスリムの兄弟である」

論は)アッラーの御もとと信仰した者たちのもとで、忌まわしいことこの上ないのです。同様にアッラーは、(アッラーへの服従に対して)高慢で尊大な(あらゆる)者の全ての心を、閉じてしまわれます』(40:35)

預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「心に蟻の重さほどでも傲慢さがあれば天国には入れません。ある男が言いました。『アッラーの使徒様、私たちのうちには良い服と靴を履きたい者もおります(これは、傲慢でしょうか?)』預言者(彼に平安と祝福あれ)はお答えになりました。

「アッラーは本当に美しく、また美しいものを愛されます。傲慢さとは、(プライドから)真実を否定して、人を見下すことなのです」(ムスリムによる伝承)

イスラームは、信じる人々にアッラーの道において出費し、みじめにならないように勧めています。自分の財産を費やさない人は、最終的に財産を失うのです。

17 みじめさを遠ざける

ケチはイスラームにおいて嫌われる性質であり、人を見じめにする最大の原因です。ケチな人は財産の心配ばかりして、失うことを恐れているのです。あまりの心配のために、持っているものを楽しむことも、善い道に使うこともできなくなってしまふのです。アッラーはおっしゃります。

『また、アッラーがそのご恩寵から授けて下さったものを出し惜みする者は、それが自分たちにとってより善いことだなどと、絶対に思ってはならない。いや、それは彼らにとって、もっと悪いことである。彼らが出し惜みしていた物は復活の日、彼らの首に巻きつけられるのだ。諸天と大地の遺産はアッラーにこそ属する。そしてアッラーは、あなた方の行うこと(全て)に通ぎようされるお方。』(3:180)

ケチな人はお金や所有物がなくなることを恐れるために、人を遠ざけてしまいます。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

イスラームは寄付をすること、そしてケチにならないことを人々に勧めています。財産を出し惜みする人は最終的にそれを失うことになるのです。



忍耐は日常生活に欠かせないものです。忍耐なしで得られるものなど、ほとんどありません。

「気前の良い人はアッラーに愛され、人に愛され、地獄の炎から救われます。ケチはアッラーに愛されず天国からも遠く、人々に嫌われて、地獄の炎に近いのです。無知で気前のよい人間の方が、誠実なケチよりもアッラーに愛されます」(ティルミズイーによる伝承)

イスラームは寄付をすること、そしてケチにならないことを人々に勧めています。財産を出しおしりする人は最終的にそれを失うことになるのです。預言者(彼に平安と祝福あれ)は、おっしゃりました。

「毎日2人の天使が、願って言うのです。『アッラーよ、あなたのために寄付する人には、ほうびを与えてその財産を祝福し、ケチな人からは減らしてください』」(ブハーリーによる伝承)

アッラーの使徒(彼に平安と祝福あれ)はケチが広がると、社会にどのような害が広がるかを明らかにしました。

「悪事に気をつけなさい。実にそれは、復活の日における大いなる闇なのですから。ケチに気をつけなさい。それは過去の人々を、流血と、自分たちの家族の侵害へと追いやり、滅ぼしたのですから。」(ムスリムによる伝承)

イスラームにおいてケチは、信仰が失われてきている悪い傾向であると見なされます。預言者(彼に平安と祝福あれ)は、おっしゃりました。

「神への信仰と、ケチが、人の心に共存することはありません」(ナサーイーによる伝承)

18 何があっても希望を捨てず、忍耐する

忍耐は日常生活に欠かせないものです。忍耐なしで得られるものなど、ほとんどありません。アッラーはおっしゃります。

『信仰する者たちよ、(アッラーへの服従において)忍耐し、(敵との)我慢比べに打ち勝ち、前線を守れ。そしてあなたが成功するべく、アッラーをおそれるのだ。』(3:200)

人生は、アッラーが与えて下さったテストなのであり、素晴ら



しい行いをこそ期待されているのです。アッラーはおっしゃります。

『われらは、いくばくかの恐怖や飢え、財産や生命や果実の損失によって、必ずやあなた方を試練にかける。忍耐する者たちには、吉報を伝えよ。』 (2:155)

また忍耐とともに、人の間違いをゆるすことも教えられます。

『また忍耐し、ゆるしてやる者。本当にそれこそは、あなた方が決意を固めるべき事柄の内のもの。』 (42:43)

努力して、より忍耐強くなることは、全てのムスリムのゴールでもあります。アッラーは忍耐する者への愛について、こうおっしゃりました。

『誠にアッラーは耐え忍ぶ者を愛でられる。』 (3:146)

アッラーは忍耐する者に大いなるほうびを約束されています。アッラーはおっしゃりました。

『(使徒よ、われがこう言っている、と)言うのだ。「信仰するわが僕たちよ、あなた方の主をおそれよ。この現世で善をつくす者には、善きものがある。そしてアッラーの大地は広大なのだ。本当に忍耐する者たちは、そのほうびを際限なく全うされる。』 (39:10)

預言者(彼に平安と祝福あれ)は、おっしゃりました。

「忍耐以上の祝福はない」 (ブハーリーとムスリムによる伝承)

忍耐があれば問題が起きたときにも気持ちが落ちつき、不幸に打ちひしがれた後にも、幸福を感じることができると教えられています。アッラーはおっしゃりました。

忍耐があれば問題が起きたときにも気持ちが落ちつき、不幸に打ちひしがれた後にも、幸福を感じることができると教えられています。



واتقوا الله العباد كبر مقتله فما تفضلوا بغيره

『そしてあなた方が成功するべく、アッラーをおそれるのだ。』(3:200)

イスラームはアッラーによって下された出来事に忍耐するように教えています。

『本当に、苦と共にこそ楽あり。本当に、苦と共にこそ楽あり。』(94:5-6)

預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「勝利は忍耐の結果であり、安心は苦悩の結果なのです。困難とともに、安楽はあります」(ハーキムによる伝承)

イスラームはアッラーによって下された出来事に忍耐するように教えています。預言者(彼に平安と祝福あれ)が災難にあった時におっしゃった言葉があります。私たちは災難にあった時に、この言葉を口にするよう勧められています。

「私たちはアッラーのもとからやって来て、アッラーのもとに帰ります。アッラーよ、この災難で私にほうびを与え、より善い帰りを与えてください。』こう言う人に、アッラーはほうびと、善い帰りを与えてくださるのです」(アフマドによる伝承)

19 怒ったり、感情的になるべきではない

怒りは人をみじめにします。アッラーはおっしゃりました。

『そして(彼らは)、罪の内の大きなものと醜行を避け、(誰かに悪くされて)怒ってしまった時にも、赦してやる者たち。』(42:37)

怒りをコントロールできる人は、人生の困難を受け入れることができます。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「相手を倒すことの出来る者が強い人間だとは言えません。強い人間とは、怒りをコントロールできる人なのです」(ブハーリーとムスリムによる伝承)

20 人の間違いをゆるす

ゆるしは社会に愛を広げてゆきます。アッラーはおっしゃりました。

『(彼ら敬虔な者たちとは、)順境においても災難の中であっても施し、いきどおりを抑え、人々を大目に見てやる者たち。アッラーは善をつくす者たちを、お好みになる。』(3:134)



私たちはすべての上に君臨しておられる、偉大なるお方から教えを授かっています。私たちは意地悪な人にですら、親切であるべきなのです。それによって憎しみを退けて、幸福と、本当の愛を感じることができるのですから。アッラーはおっしゃりました。

私たちは意地悪な人にですら、親切であるべきなのです。それによって憎しみを退けて、幸福と、本当の愛を感じることができるのですから。

『善と悪とは同じではない。(使徒よ、あなたに悪くする者にも、)より善いものでもって、返してやれ。そうすればどうだろう、あなたとの間に敵対心がある者も、あたかも親しい味方のようになるのだ。』(41:34)

21 常に希望をもち、希望を失ってはいけないこと。

預言者ムハンマド(彼に平安と祝福あれ)は全てのムスリムのお手本です。彼は未来への希望を愛し、悲観を嫌われました。(ブハーリーによる伝承)



22 悪に流されたり、他人を疑い過ぎてはいけない

悪意を持って他人と接する人は、不安に満ちた人生を送ることになり、他人からも嫌われてしまいます。アッラーはおっしゃりました。

『信仰する者たちよ、憶測の多くを避けよ。実にある種の憶測は、罪なのだから。また、(同胞のぼろを)詮索したり、互いに陰口を言ったりしてはならない。一体、あなた方の誰が、死んだ同胞の肉を食べたいというのか?あなた方は、それを忌み嫌うであろう。アッラーをおそれよ。本当にアッラーは、よく悔悟をお受け入れになるお方、慈愛深いお方なのだ。人々よ、本当にわれらは、あなた方を一人の男性と一人の女性から創り、あなた方が知り合うべく、あなた方をいくつもの民族や部族とした。実にあなた方の内、アッラーの御もとで最も高貴な者とは、最も敬虔な者なのである。アッラーこそは全知者、通ぎようされるお方。』(49:12-13)

預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

三種類の忍耐

その1：信仰における忍耐。アッラーはおっしゃりました。

『(天使たちは、彼らに言う。)**「あなた方が(現世で、アッラーへの服従において)忍耐したことゆえ、あなた方に平安を」**。そして世の(善き)結末は、何と素晴らしいことか。』

(13:24)

その2：罪を犯すことへの忍耐。アッラーはおっしゃりました。

『また(預言者よ)、その御顔を望みつつ、朝に夕に自分たちの主(だけ)に祈る者たちと共に、忍耐せよ。そして現世の生活の飾りを欲して、あなたの眼が彼ら(信仰者たち)から(不信仰者へと)逸れてしまうようでは**ならない**。また、われら**がその心をわれらの唱念から遠ざけさせ、自らの欲望を追及し、その状態が破滅に陥ってしまった者に従ってはならない**。』(18:28)

その3：アッラーが人類に下される災難への忍耐。アッラーはおっしゃりました。

『いかなる災難も、アッラーのお許しなしには降りかかることがない。そしてアッラーを信じる者は誰でも、かれ(アッラー)がその心を導いて下さろう。アッラーは、全てのことをご存知のお方。』(64:11)



アッラーに最も愛される人とは、最も他人の役に立つ人である。

「悪い考えには注意なさい。それ以上に**真実から離れた言葉はないのですから**。おたがいに疑いあい、憎み合っては**いけません**。アッラーのもとに兄弟としてありなさい」(バイハキ―による伝承)

良い考えを持つために

ムスリムは人がする事を良い思考で受けとめ、相手の行動を悪い意味に解釈してはいけません。

01 過去を忘れて、アッラーのもとにやがて帰ること、今すべきことを考える

アッラーはおっしゃりました。

『人が、「ああ、私が（現世で）、アッラーのことにおいていい加減だったことゆえの、我が悲痛よ！そして私はまさしく、嘲笑者の類いだったのだ」と言うようにならないために。または、「アッラーが私のことを導いて下さっていたら、私は敬虔な者たちの仲間となっていたのに」とか、あるいは（復活の日）、懲ばつを目の当たりにする際に、「もし、私に（現世へ）戻ることが出来て、善をつくす者たちの一人となることが出来たなら」とか、言わないようにするために。』 (39:56-58)

また、ある有名な作家はこう言いました。「過去は取り戻せません。あなたが望むことは、見えない世界に属しているのです。あなたには今この場所でできることのみがあるのです。考えても過去は戻りませんし、未来について考えても、今やるべきことが出来なくなるだけなのです」

02 慈善活動とアッラーの道のために出費する

幸福はもらうことではなく、与えることにあります。貧しい人に食事や衣服を提供したり、不幸に見舞われた人を助けるなど、誰かの役に立つことをすると、私たちは何を感じるでしょうか？アッラーはおっしゃりました。

『あなた方の内、(宗教的)徳と(経済的)余裕のある者たちは、近親、貧者、アッラーの道において移住する者たちに(彼らの過ちゆえ、施しを)与えることの放棄を誓ってはならない。そして大目に見、見逃してやるのだ。あなた方は、アッラーが自分たちのことをお赦しになるのを好まないのか？アッラーは赦し深いお方、慈愛深いお方なのである。』 (24:22)

また寄付した相手のことは忘れるべきです。恩着せがましさを感じさせてしまえば、せっかくの善い行動が台無しになってしまう上に、幸せも失ってしてしまいます。

何かを与えたからと言って自慢してはいけません。それはアッラーからのほうびと幸福を台無しにしてしまいます。



ムスリムは常にアッラーの教えを守り、社会に前向きな影響を与える存在でなくてはなりません。つまり他人の美点を愛し、悪を憎むのです。

アッラーはおっしゃりました。

『信仰する者たちよ、あなた方の施し(によるほうび)を、恩着せがましさや害によって、無効にしてはならない。人々に見せびらかすために自分の財産を費やし、アッラーも最後の日も信じてはいない者のように。というのも彼の様子は、あたかも土で覆われた滑らかな岩のようであり、そこに大雨が降れば、それを裸にしてしまうからである。彼らは自分たちが稼いだ行いから、何も得ることがない。アッラーは、不信仰者である民をお導きにはならないのだ。』(2:264)

寄付するものがなければ、親切に笑顔で話しかけるだけで十分なのであり、これはアッラーの道において寄付したものを自慢するよりも、ずっと優れているのです。アッラーはおっしゃりました。

『適切な言葉と赦しは、(施した相手に対して)害を伴う施しよりも、ましである。アッラーは満ち足りておられるお方、寛大なお方。』(2:263)

ムスリムは常にアッラーの教えを守り、社会に前向きな影響を与える存在でなくてはなりません。つまり他人の美点を愛し、悪を憎むのです。アッラーはおっしゃりました。

『また、彼ら(移住)以前に、その町(マディーナ)に信仰心と共に居を定めた者たち。彼らは自分たち(のもとに)移住した者を愛し、彼ら(移住者たち)が与えられたものについて、その胸中に嫉妬の念を見出さず、(彼らのことを)自分たち自身よりも優先する。たとえ彼らに、必要性があったとしても、である。自分自身の貪欲さから守られた者、それらの者たちこそは成功者なのだ。』(59:9)

預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「自分を愛するように兄弟を愛するまでは、本当に信仰したとは言えません」(ブハーリーによる伝承)



03 人を良い方向に導き、注意ぶかく悪をさせて幸福に生きる

アッラーはおっしゃりました。

『また(信仰者たちよ)、あなた方の内から、善きことへと招き、善事を命じて悪事を禁じる共同体をあらしめよ。それらの者たちこそは、成功者なのである。』(3:104)

このような預言者(彼に平安と祝福あれ)の伝承があります。

『『宗教の基盤は誠実であることと、アドバイスです』私たちが聞きました。『それは誰に対してでしょうか?』彼はおっしゃりました。『アッラーと、その啓典、その使徒たちに対して誠実でいなさい、そしてムスリムの指導者および大衆に対して、誠実にアドバイスをしなさい』(ムスリムによる伝承)

04 困っている人を助けて、慈善のために費やす

アッラーはおっしゃりました。

『また、その主の御顔を求めて忍耐し、礼拝を遵守し、われらが授けたものから(施しのため)秘密裏に、または公に費やし、善行によって悪行を追い払う者たち。そのような者たちには、世の(善き)結末がある。』(13:22)



05 物事をよくするために人を助けて、良い影響を与える

至高なるアッラーはおっしゃりました。

『よい執りなしをする者には誰でも、その(よいほうびの)分け前があろう。また、悪い執りなしをする者には誰でも、その(罪の)取り分があろう。アッラーはもとより、全てのことを看視されるお方。』(4:85)

誰かが何かを頼みに来るたびに、預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「兄弟を仲直りさせるならば、ごほうびを頂くことになるでしょう。そしてアッラーがあなたの面倒を見て下さるでしょう」

(ブハーリーによる伝承)

アッラーに最も愛されるのは、最も他人の役に立つ人です。最もアッラーに愛される行為は、他のムスリムを幸せにする事です。

06 誰にでもどのような形であれ、良いことを提供する

預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「アッラーに最も愛されるのは、最も他人の役に立つ人です。最もアッラーに愛される行為は、他のムスリムを幸せにしたり、困難の時に安心させたり、借金を助けたり、空腹を満たしてあげたりすることです。モスクに1ヶ月もって崇拝行為にいそしむよりも、誰かを助けることの方が、愛される行為なのです。

誰でも怒りの時に、それをコントロールするならば、アッラーが復活の時に、彼の心を満たして下さるでしょう。酔がハチミツを台無しにしてしまうように、悪い行いは、良い行いを台無しにしまいます」(タバラーニーによる伝承)

人はイスラームを広めるために努力することで、言葉に出来ないほどの幸福を感じるものです。誰かを地獄の罰から救うことは、素晴らしいことです。ある預言者の教友は、ペルシャ王のロストムに、なぜ彼の土地に来たのかを尋ねられると、答えました。

「人間を崇拜している人々をそこから解きはなち、人間を創造なさった、創造主を崇拜させるために来ました。人々を限りある現世において安心させて、来世こそが本当の人生であると理解させるために来ました。正義であるイスラームを圧倒する、全ての宗教から人々を救うために来ました」

アッラーの道において寄付すべき相手は、ムスリムだけではありません。預言者(彼に平安と祝福あれ)は不信仰者にも寄付をされました。

「アナス・ビン・マーリクによれば、アッラーの使徒は、物をねだることなど一切なく、与えていました。イスラームを受け入れた、ある人が故郷に戻って言ったそうです。『人々よ!イスラームを受け入れなさい。本当にムハンマドは、貧乏など全く恐れないう様子で、全てを与えています』(イブン・フザイマによる伝承)



04

第四の柱:アッラーの使徒たちを信じること

アッラーの使徒たちは、私たちが見習うべき素晴らしい人間でした。彼らがいなかったならば、アッラーのことや、究極の幸福について、私たちが理解することは出来なかったでしょう。イブン・アルカイムは彼の著、「帰り所のための糧」で言いましました。「深い心の癒し。それは使徒たちが伝えたものによってのみ、達成されるのです。心は自分たちの創造主を理解して、良いことのために努力して、アッラーのお怒りを受けるような不正を避けた時にのみ、善良なものとなります。その事を、預言者たちに下された啓示なしに理解することはできません。導きに従わなくても健全な状態になれるという考えは賢明だとはいえず、動物のように欲望と、気まぐれに従うことになってしまいます。この二つの状態の区別がつかなければ、心は沈んだままなのです」

人はイスラームを広めるために努力することで、言葉に出来ないほどの幸福を感じるものです。

05

第五の柱:最後の日を信じること

最後の日や、よみがえらされた後で受ける事になる褒賞と罰を信じることは、この世界で迫害されていたり、権利を取り戻すことのできない人々に、安らぎと保証を与えてくれます。来世の喜びを手に入れるため必要なものは、お金ではなく、善い行動です。預言者(彼に平安と祝福あれ)は教友におっしゃりました。

「破産者とは誰でしょうか？」彼らは言いました。「お金のない人です」預言者(彼に平安と祝福あれ)はお答えになりました。「破産者とは、私の民の中で、礼拝、断食、寄付といった素晴らしい崇拝行為を行なっていないながら、多くの間違いを犯すことで、善行の全てを、悪いことをした相手に捧げてしまう人のことです。彼はその罪のために、地獄に落とされてしまうのです」(ムスリムによる伝承)

私たちの責任と正義は、人間に対してだけではなく、動物に対しても言えることです。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。



最後の日を信じる人は、本当に素晴らしいものは天国にあるという事を理解しているために、現世で何かを得ることが出来なくても、不安など感じないものです。

「権利は正式な所有者にあります。突き殺された羊だとしても、同じことです」(イブン・ヒッバーンによる伝承)

最後の日を信じる人は、本当に素晴らしいものは天国にあるという事を理解しているために、現世で何かを得ることが出来なくても、不安など感じないものです。預言者(彼に平安と祝福あれ)はアッラーのお言葉をこのようにお伝えになりました。

「私は従うものたちに、目が見たことも、耳が聞いたことも、誰も想像すらした事がないものを用意している」それから預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。「望むのならば唱えなさい。

『また、いかなる者も、彼ら(信仰者たち)が行っていた(善い)ことゆえの報いとして、彼らのために秘蔵された喜びを知らない。』」(32:17)

信仰者は災難に襲われたとしても、忍耐して、それがアッラーからの試練である事を理解するのです。天国に入れば痛みも全て消えてしまいます。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「現世において最も裕福で祝福されていた人が連れ出されて、地獄に一度ひたされてから質問されます。「アダムの子よ、あなたの人生に良かったものがありますか？」彼は答えます。「いいえ、アッラーよ！」そして現世で最もみじめだった人が連れ出されて、天国に一度ひたされてから尋ねられます。「人生で大変な目に会いましたか？」彼は答えます。「いいえ、アッラーよ！」(ムスリムによる伝承)

最後の日を信じることはムスリムを良いことへの努力に駆り立てるのです。



06 第六の柱：運命を信じること

私たちは自分たちに降りかかることはアッラーがお決めになったことであると信じ、災難で失ったものも、良いことも、全てアッラーのご意思によるものであると信じています。アッラーはおっしゃりました。



『地上における、そしてあなた方自身におけるいかなる災難も、われらがそれを創生する以前に書の中で(あらかじめ定めること)なくしては、降りかかることがなかったのだ。実にそれはアッラーにとって、たやすいこと。(アッラーがこのように仰せられるのは、)あなた方が、(現世で)自分たちが逃したもののゆえに心痛ませたり、かれ(アッラー)が自分たちに授けて下さったもののゆえに、有頂天になったりしないようにするため。アッラーは(、自分が現世で授かったもののゆえに)尊大ぶる者、(他人に対して)高慢ちきな者をお好みにはならない。』(57:22-23)

預言者(彼に平安と祝福あれ)はある教友におっしゃりました。

「若者よ、あなたに助言をしましょう。アッラーを思えば、アッラーが助けて下さるでしょう。頼むのならばアッラーだけに頼み、助けを求めるならばアッラーだけに求めなさい。そして全ての民がひとつになって、あなたの役に立とうとしても、アッラーがお決めになったこと以外は何ひとつとして彼らに出来る事はないのだと知りなさい。また彼らがひとつになって、あなたに危害を加えようとしても、アッラーがお定めになったこと以外は何ひとつ、彼らに出来る事はないのだと知りなさい。ペンはすでにあげられて、ページは乾いているのです」(ハーキムによる伝承)

運命を信じることは人を幸せにして、心に安らぎを与えてくれます。チャンスを失っても、くよくよしたり、不安になる必要はないのです。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「強い信仰者は、弱い信仰者よりも優れており、よりアッラーに愛されます。しかし、いずれもよいものです。注意深く自分のためになる事をして、希望を失ってははいけません。避けたい出来事が起きたとしても、『もし、あれやこれをやっていたら』という言葉はいけません。『もし』は悪魔へのドアを開くのですから」(ムスリムによる伝承)

私たちは失った機会を悲しむべきではありません。ふり返ってみると、広められた不安が病気を巻き起こしている事も多くあります。直接であるにしろないにしろ、これらは運命を信じるこののできない結果だと言えます。アッラーのご意思のもと、

私たちは自分たちに降りかかることはアッラーがお決めになったことであると信じ、災難で失ったものも、良いことも、全てアッラーのご意思によるものであると信じています。



『アッラーは(、自分が現世で授かったもののゆえに)尊大ぶる者、(他人に対して)高慢ちきな者をお好みにはならない。』(57:22-23)

アッラーのご意思のもと、これらの六つの柱を心から信じていただければ、あなたは心配事や悩みを克服することができます。

これらの六つの柱を心から信じていただければ、あなたは心配事や悩みを克服することができます。

恐怖の種類と癒し

イスラームは恐怖、悩み、心配を癒してくれます。人は様々なことに恐怖を抱くものです。

A 必要品の不足への恐怖

アッラーはおっしゃりました。

『また天には、あなた方の糧と、あなた方に約束されているものがある。』 (51:22)

アッラーのお言葉は真実です。天国には人々のための恵み、糧があるのです。雨がふって野菜が育つように、私たちも雨水から恵みを受けています。アッラーは、私たちに必要な恵みをご用意して下さると約束なされました。アッラーはおっしゃりました。

『地上を歩くいかなる生き物でも、その糧がアッラーに委ねられていないものはない。またかれは、それらの定住地と収容地をご存知である。全ては、明白なる書の中に(あらかじめ定められて)あるのだから。』 (11:6)

どれほど弱い生き物にも、アッラーは糧をお与えになっています。アッラーはおっしゃりました。

『自らの糧を調達することのない、どれほど多くの地を歩む生き物に対し、アッラーは糧を授けられることか？そしてあなた方にも？かれはよくお聞きになるお方、全知者であられる。』 (29:60)

イエス・キリストを出産して、痛みに弱っていたマリアに、アッラーはおっしゃりました。

『そしてナツメヤシの木の幹を、ご自分の方にお揺らしなさい。そうすればそれは、採りごろの熟れたナツメヤシの実を、あなたの上に落とします。』 (19:25)

アッラーは新鮮な最高のナツメヤシをお恵みになったので



す。マリアは木を揺するだけで、それを手にする事ができました。アッラーは動物たちにもお恵みになるのであり、いたる所にアッラーからの恩恵を見ることができます。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「あなたが本当にアッラーに身をゆだねるならば、鳥たちに与えるように、あなたに与えてくださるでしょう。鳥たちは空腹で巣を飛び立ち、満腹で戻ってくるのです」(イブン・マージャによる伝承)

また人は間違った方法で、神に身をゆだねがちです。間違いを起こさないために、自分ができることはしなければなりません。預言者(彼に平安と祝福あれ)はラクダを縛っておかず失ってしまった男に、神に『身をゆだねる』とはそういうことではない、とおっしゃったことがあります。

「ラクダをつないで、アッラーを信じなさい」(イブン・ヒッバーンによる伝承)

このような教えを無視して、魔法のような恵みを求める人が多いのも事実です。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「薪を売ることは、物乞いをするよりも良いのです」(ブハーリーによる伝承)

この言葉から、アッラーの恵みを得るために努力する事の大切さがわかります。また誰かにアッラーからの恵みを奪われるなどは、考えるべきではありません。アッラーはおっしゃりました。

『言ってやるがいい。「もし、あなた方が我が主のご慈悲の宝庫を所有していたとしても、出費(ゆえの貧困)を恐れて出しおしみましたであろう。人間とは元来、守銭奴なのだから。』(17:100)

B 病気や災害などの被害への恐怖

このような恐怖はどれだけ心配しても、何も変わりはありません。むしろ状態は悪くなるばかりです。アッラーはおっしゃりました。

『(使徒よ、)もしアッラーがあなたに害悪をお与えになれば、かれ以外には誰一人、それを取り除いてくれる者はいな

私たちはアッラーに定められた糧を得るために努力すべきです。また誰かにアッラーからの恵みを奪われるなどは、考えるべきではありません。



預言者(彼に平安と祝福あれ)は降りかかった災難を受け入れるように命じられ、また災難がやわらぐことを願っていました。

い。また、かれがあなたに何らかの善をお望みになれば誰一人として、その恩寵を突き返す(ことの出来る)者はいない。かれはその僕の内から、かれがお望みになる者に、それ(害悪あるいは善)をお与えになるのであり、かれは赦し深いお方、慈愛深いお方なのだ。』(10:107)

アッラーの使徒(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「本当に驚くべきは信仰者の態度です。全ての出来事が最終的に善となってしまうのは、信仰者だけのことです。祝福に恵まれば、神に感謝することで善となり、災難にあえば、忍耐することで善にします」(ムスリムによる伝承)

預言者(彼に平安と祝福あれ)は降りかかった災難を受け入れるように命じられ、また災難がやわらぐことを願っていました。

預言者(彼に平安と祝福あれ)は、会いに行った孫の様子に涙を流されたことがあります。預言者(彼に平安と祝福あれ)は、死の床にある子供の横にお座りになりました。子供の目は石のように動かなくなっていました。それをご覧になって預言者(彼に平安と祝福あれ)はお泣きになりました。教友サアドが涙についてたずねました。「なぜです、預言者様?」彼はお答えになりました。「これは至高の神が信仰者に下さるご慈悲なのです。本当に神は、他人に対して慈愛深くある人に、慈愛深くあられるのです」(ブハーリーによる伝承)

ムスリムは忍耐強くなければならない一方で、病気の時には薬による治療をしなければなりません。預言者(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。

「アッラーに従うものたちよ、薬による治療を探しなさい。本当にアッラーは病気だけではなく、その薬もお定めになったのですから」(イブン・ヒッバーンによる伝承)

また、人は違法な薬を求めないように注意しなければなりません。教友アブー・フライラは言いました。

「アッラーの預言者様(彼に平安と祝福あれ)は違法な薬の使用を禁止されました」(ハーキムによる伝承)



預言者(彼に平安と祝福あれ)は、こうもおっしゃりました。

「全ての病には治療法があります。その治療法を無視する者は無視するでしょうし、それを知らうと望む者は知るでしょう」(イブン・ヒッバーンによる伝承)

私たちは死そのものではなく、死後に何が待っているかを考えるべきです。死を防ごうとしたり、不老不死を求めることは無駄です。

C 死への恐怖、誰もが死を体験する事になるという現実

アッラーはおっしゃりました。

『そこ(大地)にある全てのものは、消え行く。そしてあなたの主の、高貴さと荘厳さを湛えた御顔だけが残る。』(55:26-27)

誰も死を逃れることはできません。アッラーはおっしゃりました。

『言ってやれ。「本当に、あなた方が逃げている死、それはまさしく、あなた方と対面することになるもの。それからあなた方は(復活の日)、不可視の世界と現象界をご存知のお方(アッラー)へと戻され、そしてかれはあなた方に、あなた方が行っていたことをお告げになり、それに対して報われ」るのだ。』(62:8)

私たちは死そのものではなく、死後に何が待っているかを考えるべきです。死を防ごうとしたり、不老不死を求めることは無駄です。アッラーはおっしゃりました。

『いかなる(不信仰な)共同体にも、(定められた)期限がある。そして彼らの期限が訪れば、(彼らはそれを)一刻たりとも遅らせたり、早めたりすることはない。』(7:34)

死を嫌がる人は、信仰が弱いか、そもそも信仰がない人なのです。最後の日を信じ、よみがえりを信じ、審判と精算を信じる人の心は、安心しているものです。死ぬことによって、自分はより善い場所に出発するのだと信じている人は、社会においても前向きなものです。チャンスを奪われようと、抑圧者に虐待されようと、全ては全能なるアッラーの前で精算される事になる訳ですから、くよくよする必要がないのです。







おわりに



モーリス・ゴードフロイは言いました。『ムハンマドは預言者であり、いうまでもなく神学者ではありませんでした。

イスラームは真実かと聞かれれば、私はイエスと答えます。考える全ての問題に、論理的な解答を与えてくれるからです。信仰や、アッラーへの信頼、ムスリムとしての義務を果たし、禁じられたことを避ける自分に、安らぎと快適さを感じます。それによって自分の権利と他人の権利が守られていると感じるのです。善きもの、倫理、マナーを支持して、全ての悪を避けるように、アッラーが呼んで下さるのを感じます。もし信仰がこれらを与えてくれないのであれば、一体どこに善きものがあると言うのでしょうか？

最高の信仰とは何でしょう。イスラームです。「あなたはムスリムだから、イスラームを広めようとしているだけだ」と言う人もいるでしょう。しかし、このように主張しているのはムスリムだけではありません。西洋諸国にいる多くの文学者たちが、公正な姿勢でもって、イスラームの素晴らしさを説いています。

モーリス・ゴードフロイは言いました。『ムハンマドは預言者であり、いうまでもなく神学者ではありませんでした。初期のムスリム・コミュニティを構成した、彼のまわりのエリートたちは皆、アッラーの名のもとに彼がひろめた法、教え、慣習に満足していました』(注1)

ワシントン・アーウィング(注2)は言いました。『彼の軍事的勝利は利己心からくる自分たちの努力による功績であるという誇り、うぬぼれを感じさせることはなく、権力の全盛期にも、逆境の時にも、この簡素な礼儀作法が変わることはありませんでした。その王権にも関わらず、部屋に入った時に敬意を表明する言葉がかけられると、彼は居心地の悪い顔をしたのですから』(注3)

エドゥムンド・ブルクは言いました。『ムハンマドの法は統治体制から小さな決まりまで、かつて世界に存在した中で最も優れ、かつ学ばれた、全てのシステムを束ねる非常に優れた法なのです』(注4)



注1：アフダルル・ラフマーン著『エンサイクロペディア・オブ・スィーラ』より。

注2：高明な作家、1859年没。

注3：アフダルル・ラフマーン著『エンサイクロペディア・オブ・スィーラ』より。

注4：同上。



G. マーゴリユースは言いました。『クルアーンは世界の偉大な宗教書の中でも、極めて重要なものです。新時代を築いた書物の中では最も新しく、他に類を見ない素晴らしい影響を、人類の広範に与えました。人類の思想史に、全く新しい局面と、鮮烈な人格をもたらしたのです』(注1)

さて、イスラームを真実として受け入れる準備はできましたか？



それは神の唯一性へと呼びかけるからでしょうか？



全能の神のみを信仰するように呼びかけるからでしょうか？



人々にあらゆる形における倫理を支持させるからでしょうか？



正しくあり、不正を避けるように呼びかけるからでしょうか？



アッラーの目には全ての人々が平等にうつるからでしょうか？



その教えによって全人類が神に与えられた権利を受け取るからでしょうか？



1400年前から現在に至るまで、イスラームを受け入れる人は増え続けています。偏見なく耳を傾ければ、誰もが確信を持ってイスラームを受け入れることでしょう。たとえ受け入れないとしても、正しい理解と敬意を持ち、憎しみを抱くべきではありません。

注1：G. マーゴリユースはJ.M.ロッドウェルズにクルアーンを紹介した。(ニューヨーク：エブリマンズライブラリー出版：1977年)。

真実を受け入れる最初のステップは、客観的に物事を見つめてみることです。どうかあなた自身のために、神の助力と、お導きを願ってみて下さい。

世界中のムスリムの現状を見れば、迫害や困難にも関わらず、彼らが確固たる信仰を握りしめている事がわかります。ソビエト連邦では70年間、ムスリムが迫害されてきました。モスクは破壊され、人々は改名を余儀なくされました。そして公に信仰を持つことすら禁止されていたにも関わらず、ソ連崩壊と同時に、彼らは新たなムスリム国家を成立させたのです。これはムスリムたちが満ち足りていて、幸福で、揺るぎない信仰を持っていることの証拠だとは思いませんか？

公正に真実を探す人ならば誰でも、イスラームの教えには不適切なものなど無い事に気がつくことでしょう。イスラームは自分自身をより善く成長させるための礼儀作法を守るように呼びかけます。真実を追い求めて世界中の宗教を学んでもなお、まだイスラームには目を向けた事のない人がいます。彼らが幸福を見いだすことができますように。

人生には、決断を迫られる時があるものです。選択肢は、二つに一つ。イスラームを受け入れて幸福を手にするか、それを受け入れる事なく、今まで通りに過ごすか。イスラームが毎日のようにメディアで批判されているのは何故でしょう。人間には理解できないものを恐れる傾向があるのです。しかし、理解できないからといって憎む必要はありません。イスラームの教えと知識が正しく広まることで、人々が救われますように。

真実を受け入れる道のり

真実を受け入れる最初のステップは、客観的に物事を見つめることです。どうかあなた自身のために、神の助力と、お導きを願ってみて下さい。あなたの中に真実を求める誠実さがあるならば、きっと神によるお導きがあることでしょう。彼はおっしゃります。

『また(人々よ)、あなた方の主は仰せられた。「私に(のみ)祈るのだ。そうすればわれは、あなた方に応えよう。本当にわれ



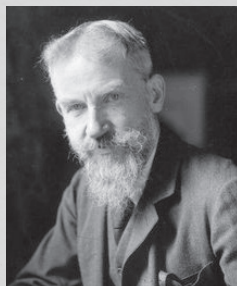
の崇拜に対しておごり高ぶる者たちは、やがてさげすまれた者となって、地獄に入ることになる。』(40:60)

数多くの作家や、思想家、学者たちが世界中でイスラームを受け入れているのは何故でしょう？イスラームの誠実さや美しさに触れて、否定的なメディアの影響を受けることなく、自分自身で判断したからに他なりません。彼ら自身が、イスラームを真実として受け入れることを決めたのであり、彼ら自身が本当の幸せを、この人生において生き始めたのです。

中にはイスラームについて読んで学び、理解しながらも、受け入れない人もいますが、クルアーンとイスラームについては真実を話しています。トーマス・カーライルがその例で、彼は言いました。「間違った人間に、宗教を打ち立てることは出来ないだろう。間違った人間には、レンガで家を建てることすら出来ない。建築法も知らず、モルタルの性質も、粘土の焼き方も、何も知らないとすれば、ゴミの山が出来上がるだけであり、そんなものは一日たりとも持ちはず、偽札のように無価値なのだ。

有名な作家であり、評論家でもあるジョージ・バーナード・ショー(1950年没)は言いました。「私は常にムハンマドの宗教を、その素晴らしい活力において高く評価している。それは現存するものの中で唯一、どの時代においても受け入れることが可能な宗教だからである。私は、明日からでも現代ヨーロッパがムハンマドの信仰を受け入れることができると公言する。中世の聖職者たちは、無学からにせよ、頑迷からにせよ、イスラームを暗いイメージで塗りつぶしてきた。ムハンマドという人物と宗教が、人々から嫌われるような教育をしてきたのである。彼らにとってムハンマドは反キリストなのである。様々なことを学んできたが、彼は素晴らしい人物であり、反キリストとはおよそ程遠い、人類の救世主と呼ぶべき人物である」(注1)

ジョージ・バーナード・ショーは言いました。「私は常にムハンマドの宗教を、その素晴らしい活力において高く評価している。それは現存するものの中で唯一、どの時代においても受け入れることが可能な宗教だからである。



注1：『英雄崇拜論』より。

イスラームを攻撃するために学び始めた多くの東洋学者が、最終的にはムスリムになってきました。デボラ・ポッターは断言しました。「決定的な真実の証拠は、否定のしようがないのです」。

まわりの人間は、賢くそれに気付かなければならない。フランス革命がそうであったように、間違った真実への理解にもとづく宣誓は、やがて燃えつきてしまう。偉大なる人物とは、驚くまでに真実である。真実が基盤だからこそ、全てが彼のうちに横たわることができるのだ(注1)

アッラーはおっしゃります。

『(使徒よ、)本当にあなたが、自分の好む者を導くのではない。しかしアッラーが、かれのお望みになる者をお導きになるのであり、かれは導かれる者たちを最もよくご存知である。』(28:56)

希望を失ったり、「私は導かれた者ではなかったのだ」などと言ってははいけません。アッラーの使徒(彼に平安と祝福あれ)はおっしゃりました。「それを拒む人をのぞいて、私の共同体にいる全ての人は天国に入るでしょう」彼(平安と祝福あれ)は質問を受けました。「誰が拒むのですか?」彼はおっしゃりました。「私に従う人は天国に入り、私に従わない人は拒んだこととなります」(ブハーリーによる伝承)

イスラームを攻撃するために学び始めた東洋学者の多くが、最終的にはイスラームへと改宗してきました。デボラ・ポッター(注2)は断言しました。「神の法であるイスラームは、私たちを取りかこむ自然について明らかにしています。アッラーが創造なさった山々、海、天体や軌道を回る星々。彼らは物語の登場人物のように、創造主であるアッラーに従っており、最高の規範はアッラーにあるのです。彼らは創造主がお決めになったこと以外、喋ることも、演じることもありません。全宇宙に存在する、原子から無生物にいたるまでの全てがアッラーに従っているなかで、人間は自由意思を与えられた特別な存在です。私たちにはアッラーの命令に従うことも、それを諦めて自分のための宗教を作り出すこともできます。そして不幸なことに、多くの人が二番目を選んでいのです。ヨーロッパやアメリカで、多くの人がイスラームを受け入れているのは、彼らが自由な心と精神的な安心感に飢えているからです。イスラームを破壊するために、その欠点のリサーチを始めた多



注1：アフダルル・ラフマーン著『エンサイクロペディア・オブ・スィーラ』より。

注2：1954年、ミシガン州トラバース生まれ。ジャーナリズム専攻でミシガン大卒。イマード・アッディーン・ハリール著『What they say about Islam』より。

くのキリスト教東洋学者や宣教師が、ムスリムになって来ました。決定的な真実の証拠は、否定のしようがないのです」

ほとんどの宗教には、その実践と教えにおいて受け入れがたい要素がありますが、イスラームは違います。かつて使徒と、預言者たちが特定のグループにつかわされてきたのに対し、最後の預言者であるムハンマドは、全人類のためにつかわされました。

イスラームへの疑いと答え

「もしイスラームが、あなたが主張するように正しく、また素晴らしいのであれば、すべてのムスリムがその信仰を固守しているはずだ」という声も、聞こえてくるかも知れません。過去に出会ったムスリムに、嫌な思いをさせられた人もいるかも知れません。しかし、それによってムスリム全体が悪くなるという訳ではありません。多くのムスリムが本来あるべき、正しいイスラームを生きています。そして、あなたが信じるか信じないかは別として、やがて私たちは行動の責任を、アッラーの前でとる事になります。

信号機があるのは、私たちの運転マナーを守るためです。赤信号で飛びだせば、自分のことだけではなく、他人のことをも危険に巻き込んでしまいます。それを目撃した人たちが、法律を守ることなく、もみ消してしまったりどう思うでしょう。たとえ何回かを逃げきったとしても、やがては逮捕されて自分の行いについて罰を受けることになります。

ムスリムについても同じことが言えます。イスラームに従わない人がいたとしても、それでムスリム全体が悪くなる訳ではありません。ひらたく言うならば、イスラームのことはムスリムの行いによってではなく、その教えによって判断すべきなのです。

イスラームを受け入れるという決断は難しく、勇気がいることであるかもしれません。全能なるアッラーに祈ります。あなたが真実へと導かれ、あなたの心が真実へと開かれ、完全なる幸福へのお導きがありますように。アーミン。

ムスリムの中には、それを実践していない人たちもいますが、それによって全てのムスリムが悪くなる訳ではありません。信仰者たちが何をしているかによってではなく、本来の教えによってイスラームは判断されるべきなのです。









مركز اصول

OsoulCenter
www.osoulcenter.com

IslamHouse.com



eDialogue

Interested in ISLAM?
Join For a Free Private Live Chat



edialogue.org

For more details visit
www.GuideToIslam.com



contact us :Books@guidetoislam.com



عرض تعريفية عن مركز اصول
ومجالاته ووحدة.. مشاهدة ممتعة لك



www.osoulcenter.com



To Download This Book, please Visit:

OSOUL
STORE





Download
the book



www.guidetoIslam.com

